OLYMPUS®

ボイストレック

DS-10

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、
製品を正しく安全にお使い下さい。
お読みになったあとは、いつでも見られる
ところに必ず保管して下さい。

失敗のない録音をするために
試し録りをしてください。

JP

安全に正しくお使いいただくために

ご使用前にこの取扱説明書をお読みになって、正しく安全にお使いください。
また、お読みになった後は、いつでも見られるように必ずお手元に保管してください。

• 安全に関する重要事項は、以下の表示と文章で示されます。あなたと他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、必ず守ってください。
• 表示の意味は、次のようになっています。

⚠警告

この表示は、「誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。

⚠注意

この表示は、「誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される」内容を示します。

この記号は、決してしてはいけない「禁止」内容を表しています。図または文章で具体的な禁止内容を示します。

この記号は、必ず実行していただく「強制」内容を表しています。

電池について

⚠警告

本機で指定されてない電池を使わないでください。

充電できないアルカリ電池、リチウム電池などを充電しないでください。

火の中への投入、加熱、⊕と⊖極間のショート、分解をしないでください。

古い電池と新しい電池、種類、メーカーの異なる電池を使わないでください。

電池の極性（⊕と⊖）を逆に入れないでください。

電池は、液漏れ、発熱、発火、破裂する恐れがあります。

• 表面の被覆の破れた電池を使わないでください。
• 長期間使用しない時は、必ず電池を取り出して保管してください。
• 使用済みの電池は接点部分にテープを貼って絶縁し、一般廃棄物として各自治体の指示にしたがって廃棄してください。
• 使えなくなった電池は速やかに本機から取り出してください。液漏れの恐れがあります。

⚠警告

電池は幼児・子供の手の届くところに置かないでください。

電池は幼児・子供が飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠警告

万一、使用中に異常な音がする、異常に熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、

① 火傷に注意しながら速やかに電池を抜いてください。
② お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理に出してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

AC アダプタについて

⚠警告

分解、修理、改造をしないでください。
感電やケガの恐れがあります。

⚠警告

内部に水、金属、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。
火災や感電の原因となります。

⚠警告

引火性ガスや物質（ガソリン、ベンジン、シンナーなど）の近くで使用しないでください。
爆発や火災、火傷の原因となります。

⚠警告

プラグ先端の⊕、⊖をショートさせないでください。
火災や火傷、感電の原因となります。

⚠警告

落下や損傷により内部が露出したら、
① 露出した内部に絶対触れないでください。感電、火傷、ケガの恐れがあります。
② 感電、火傷、ケガに注意し、直ちに電源プラグをコンセントから抜いてください。
③ お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理に出してください。

⚠警告

水に落としたり、内部に水や金属、燃えやすい異物が入ったら、
① 電源プラグをコンセントから抜いてください。
② お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理に出してください。
そのまま使用すると火災や感電の危険があります。

⚠警告

万一、使用中に異常な音がする、異常に熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、
① 火傷に注意しながら速やかに電源プラグをコンセントから抜いてください。
② お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理に出してください。放置すると火災や火傷の原因となります。

⚠注意

濡らしたり、濡れた手で触らないでください。
感電の原因となります。

⚠注意

表示の電源電圧以外で絶対使用しないでください。

電源プラグにほこりをつけたまま、コンセントに差し込まないでください。

電源プラグのコンセントへの差込が不完全なまま使用しないでください。

使用しない時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源コードを傷つけないでください。
- コードを引っ張って電源プラグをコンセントから抜かないでください。
- コードの上に重いものをのせないでください。
- 熱器具にコードを近づけないでください。
- コードを無理に曲げたり、強く引っ張らないでください。

火災や感電の原因となります。

本機について

⚠警告

分解、修理、改造をしないでください。
感電やケガの恐れがあります。

⚠警告

操作前から、音量を上げないでください。
聴覚障害、聴力低下を引き起こす恐れがあります。

車両（自転車、バイク、車など）の運転をしながら操作しないでください。
交通事故などの原因となります。

⚠警告

この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児、子供の近くで使用する時は細心の注意を払い、不用意に製品から離れないでください。幼児、子供には警告･注意の内容の理解ができませんし、加えて以下のような事故の恐れがあります。例えば
— 誤ってイヤホンコードを首に巻き付け、窒息する。
— 操作を誤りケガや感電事故などを起こす。

⚠警告

水に落としたり、内部に水や金属、燃えやすい異物が入ったら、
① 速やかに電池およびACアダプタを抜いてください。
② お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災や感電の危険があります。

⚠警告

航空機内や病院などで使用を禁止された場所では使用しないでください。
電子機器や医療用電気機器に影響をおよぼす場合があります。
医療機関内における使用については各医療機関の指示にしたがってください。

使用上のご注意

- 直射日光下の車の中や夏の海岸など、高温・多湿の場所に放置しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- 水気がついたら、すぐに乾いた布で水分を拭き取りましょう。特に塩分は禁物です。
- 清掃する時、アルコールやシンナーなど、有機溶剤を使用しないでください。
- テレビ・冷蔵庫などの電気製品の上や近くに置かないでください。
- 砂や泥をかぶらないようにご注意ください。修理不可能なほどの故障になることがあります。
- 強い振動やショックを与えないでください。
- 水気の多い場所で使用しないでください。
- 磁気カード（銀行のキャッシュカードなど）をスピーカやイヤホンの近くに置くと、磁気カードに格納されたデータに異常が生じることがあります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

目次

主な特長

本商品は以下のような特長を備えております。

- **録音した音声を高能率圧縮でデジタル変換し、DSS（Digital Speech Standard）形式やWMA（Windows Media Audio）形式のファイルとして記録します。**＊[1]

- **HQ（高音質録音）・SP（標準録音）・LP（長時間録音）の3種類の録音モードが選択できます。（☞ P18）**
  - HQモードで約4時間20分、SPモードで約10時間25分、LPモードで約22時間20分の連続録音が可能です。＊[2]

- **5つのフォルダにそれぞれ199件、合計で最大995件の音声ファイルが保存できます。（☞ P14）**

- **オリジナルのフォルダ名が入力できます。（☞ P38,69）**
  - 5つのフォルダにはそれぞれ全角4文字（半角8文字）以内の名前をつけることができます。
  - 10種類のテンプレート（ひな形）があらかじめ登録されています。

- **ファイルごとにコメントが入力できます。**＊[3] **（☞ P41,69）**
  - 録音したファイルにはそれぞれ全角50文字（半角100文字）以内のコメントをつけることができます。
  - 10種類のテンプレート（ひな形）があらかじめ登録されています。

- **ノイズキャンセル機能を搭載しています。**＊[3] **（☞ P26）**
  - Cortologic AGのノイズ抑制技術により、ファイル中のノイズを軽減し、よりクリアな音質で再生します。

- **録音した音声ファイルを別のフォルダに移動させることができます。（☞ P42）**

- **インデックスマークの記録と消去が可能です。**＊[3] **（☞ P33）**
  - ファイル内の聞きたい位置をスピーディに探せるように、録音中または再生中にインデックスマークをつけることができます。

- **再生スピードをコントロールできる早聞き・遅聞き再生機能付き。**＊[3] **（☞ P21）**

- **パソコンにつないでUSBマイクやUSBスピーカとしてもご使用になれます。**＊[4] **（☞ P76）**

● **フルドット表示のバックライト付き大型ディスプレイ(LCD表示画面)を採用しています。**

- 録音した音声ファイルについてのさまざまな情報や操作に関するメッセージを、ひらがなや漢字など日本語で分かりやすく表示します。

● **専用ソフトウェアの「DSS Player」を付属しています。**

- 本機で録音した音声ファイルをパソコンに転送すれば、再生や整理、編集などが簡単に行えます。

● **パソコンとの高速データ転送を可能にするUSB ケーブルを付属しています。**

- 専用クレードルを付属しています。

● **別売りの音声認識ソフトを利用すれば、録音した音声ファイルを文字に自動変換できます。(☞ P71)**

- IBM 社の「Via Voice」、またはジャストシステム社の「Voice 一太郎」の使用により、録音した音声ファイルを高い変換効率で文字変換させることができます。*5

*1:SP・LP モード録音時はDSS 形式、HQ モード録音時はWMA 形式になります。

*2: 1つのファイルを連続で録音した場合の録音可能時間です。小刻みに録音を繰り返した場合は、録音可能時間がこれより短くなることがあります。(録音可能時間および録音時間表示はめやすとしてお使いください)

*3:WMA形式のファイルについては、本機で録音したファイルに限りこれらの機能をお使いになることができます。

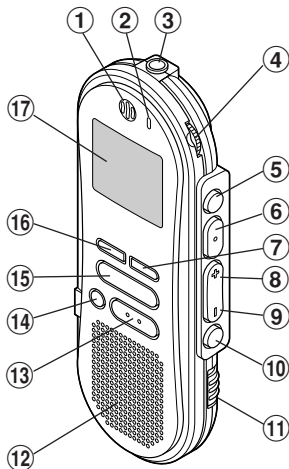
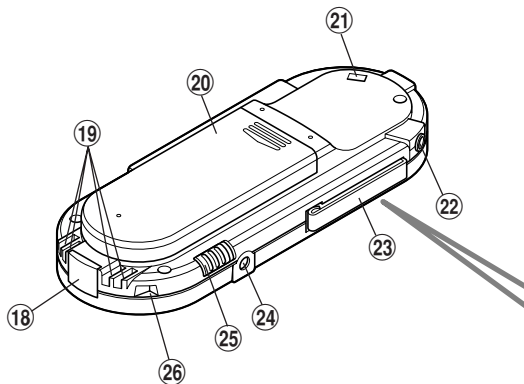
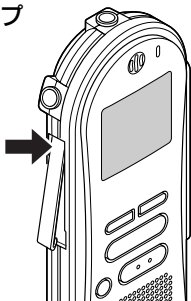
*4:パソコンの動作が不安定になる恐れがありますので、Windows 98ではUSBマイク/スピーカとしてご使用にならないでください。(Windows 98SE 以降の OS でお使いください)

*5:比較的静かな環境の中、本機をHQ・SPモードに設定し、音声認識ソフトに音声登録した1人の人が一定した話しかたで録音する必要があります。

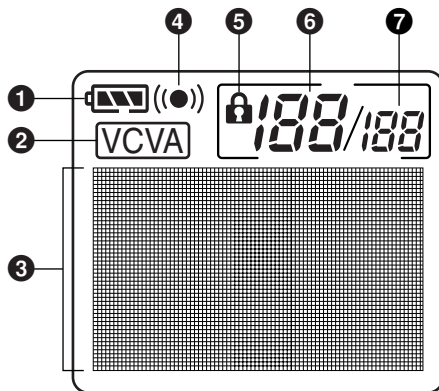
次のような状況で録音した音声ファイルは認識率が低く、文字変換には不向きです。

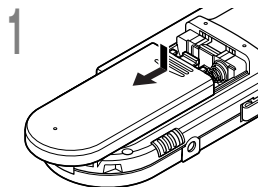
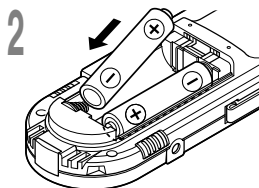
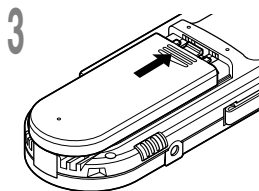
— 複数の人の声が録音される、会議や座談会など

— まわりの雑音も録音されやすい、講演会や講義など

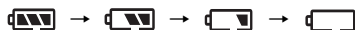
各部のなまえ

① 内蔵マイク
② 録音 / 再生表示ランプ
③ マイクジャック
④ 音量つまみ
⑤ フォルダボタン、リピートボタン
⑥ 再生ボタン（決定）
⑦ インデックスボタン
⑧ 早送り / ＋ボタン（選択）
⑨ 早戻し / －ボタン（選択）
⑩ メニューボタン
⑪ ホールドスイッチ
⑫ 内蔵スピーカ
⑬ 停止ボタン
⑭ 消去ボタン
⑮ 録音ボタン
⑯ 表示ボタン
⑰ ディスプレイ（LCD 表示画面）
⑱ パソコン接続（USB）端子
⑲ クレードル接続端子
⑳ 電池ぶた
㉑ ストラップ取り付け部
（市販のストラップをお使いください）

- 矢印部分を押してご使用ください。
- クリップは無理に広げないようにしてください。破損する恐れがあります。

㉒ イヤホンジャック
㉓ クリップ
㉔ 電源ジャック
㉕ マイク感度スイッチ
㉖ クレードル取り付け部

ディスプレイ（LCD 表示画面）

❶ 電池残量表示
❷ 音声起動録音（VCVA）表示
❸ 情報、警告表示部
❹ アラーム表示
❺ 消去ロック表示
❻ ファイル番号
❼ フォルダ内総ファイル数

乾電池を入れる

1 矢印部分を軽く押しながら、電池ぶたをスライドさせて開ける

2 単4形乾電池(2本)の⊕と⊖を正しい向きで入れる

3 電池ぶたを完全に閉める

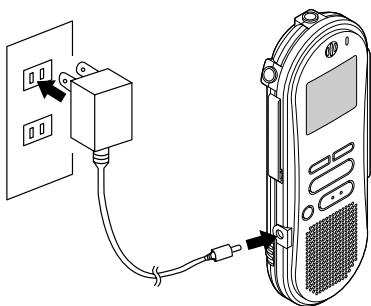
乾電池を交換するめやす

電池の残量に応じてディスプレイの電池残量表示が次のようにかわります。

「電池を交換して下さい」

ディスプレイに ［電池マーク］ マークが表示されたら、早めに新しい電池に交換してください。
電池がなくなると、ディスプレイに「電池を交換して下さい」が表示され、動作が停止します。交換の際はアルカリ単４形乾電池の使用をおすすめします。

ご注意

- 電池の交換は必ず本機を停止状態にしてから行ってください。
  本機が録音、消去などの動作中に電池を抜くと、ファイルが再生できなくなる恐れがあります。
- 電池を交換するときは、必ず２本とも新しい電池に交換してください。
- １分以上電池を抜いたときは、再び電池を入れた際に時刻の設定が必要になることがあります（☞P12）。

ACアダプタを使用する

ACアダプタA324（別売）を家庭用電源のコンセントに差し込み、プラグを本機の電源ジャック（DC3V）に接続します。ACアダプタのプラグは、必ず本機を停止状態にしてから差し込んでください。電池で録音中にACアダプタのプラグを差し込むと、録音中の内容が再生できなくなる恐れがあります。

警告

極性の違うものや出力電圧が3V以外のACアダプタは、絶対に使用しないでください。

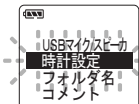
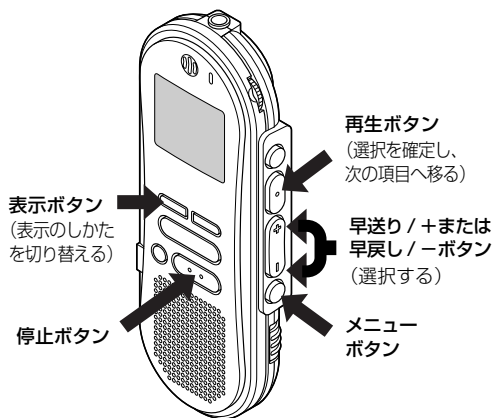
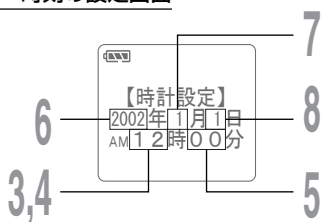
ACアダプタA324は日本国内専用です。外国では使用しないでください。

ACアダプタは誤った使い方をすると破損したり、火災や感電の原因になりますので、必ず専用のACアダプタA324を使用してください。

ACアダプタは、本機を停止状態にしてから取り外してください。

ACアダプタをお使いになったあとは必ずコンセントから抜いてください。

日付・時刻（TIME & DATE）を合わせる

日付と時刻を設定しておくと､｢いつ録音した｣という情報がファイルごとに自動で記録されます。録音したファイルの管理を容易にするために､あらかじめ設定しておくことをおすすめします。またアラーム再生を行うときに必要です（☞ P30）。

ご購入後初めてお使いになるときや、長い間お使いにならないで電池を入れたときは、「時計を設定して下さい」と表示されます。「時」表示が点滅したら、次の手順３から設定をしてください。

日付・時刻の設定画面

日付・時刻の設定をかえるには

1 メニューボタンを押す

メニュー画面に入ります（☞ P47）。

2 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して時計設定を選ぶ

3 再生ボタンを押す

｢時｣表示が点滅し､日付･時刻の設定を始めます。

- 時、分の設定中、表示ボタンを押すたびに、12 時間表示と 24 時間表示が切り替わります。

（例）午後 5 時 45 分の場合

PM5 時 45 分 ↔ 17 時 45 分
<初期設定>

4 「時」を設定する

① 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「時」を設定します。
② 再生ボタンを押して、「時」を確定します。

5 「分」を設定する

① 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「分」を設定します。
② 再生ボタンを押して、「分」を確定します。

6 「年」を設定する

① 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「年」を設定します。
② 再生ボタンを押して、「年」を確定します。

- 年、月、日の設定中、表示ボタンを押すたびに「年」「月」「日」表示の順序が切り替わります。

（例）2002年3月14日の場合

2002年3月14日 ←
<初期設定>
↓
3月14日2002年
↓
14日3月2002年 →（最初に戻る）

7 「月」を設定する

① 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「月」を設定します。
② 再生ボタンを押して、「月」を確定します。

8 「日」を設定する

① 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「日」を設定します。
② 再生ボタンを押して、「日」を確定し、設定を完了させます。

9 停止ボタンを押す

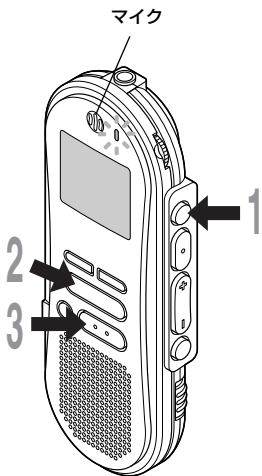
メニュー画面を終了します。

＊「日」を確定したときから本機の時計が動き始めます。時報などに合わせて再生ボタンを押してください。

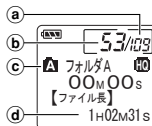
ご注意

設定の途中に停止ボタンを押すと、それまでに確定した項目が設定され時計が動き始めます。

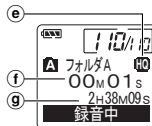
録音する

本機には🅰🅱🅲🅳🅴の5つのフォルダがあり、各フォルダに録音した音声は1件ごとに「ファイル」として保存されます。🅰フォルダはプライベート用、🅱フォルダはビジネス用といったように、録音する内容によって使い分けると便利です。また各フォルダは区別しやすいように名前をつけることができます（☞ P38）。各フォルダごとに最大199件の用件を録音できます。

1 フォルダボタンを押してフォルダを選ぶ

フォルダ名が表示されます。

ⓐ フォルダ内に録音済みのファイル総数
ⓑ 現在のファイル番号
ⓒ 現在のフォルダ名
ⓓ 選択したファイルの長さ

2 録音ボタンを押して録音を開始する

録音/再生表示ランプが赤く点灯します。
録音したい方向にマイクを向けます。

ⓔ 現在の録音モード
ⓕ 現在の録音時間
ⓖ 録音可能な残り時間

3 停止ボタンを押して録音を止める

ディスプレイの表示パターンをかえることができます（☞ P45）。

ご注意

- 頭切れを防ぐために、録音 / 再生表示ランプの点灯を確認してから録音を行ってください。
- 録音中に録音可能な残り時間が 60 秒、30 秒、10 秒になったときに、「プー」という警告音が鳴ります。
- フォルダを選ぶときはフォルダボタンを短く押してください。1 秒以上押し続けると、エンロール画面が表示されます（☞ P73）。
- ディスプレイに「メモリがいっぱいです」や「これ以上記録できません」と表示されたときは、メモリやファイル件数がいっぱいです。不要なファイルを消去してから録音をしてください（☞ P27）。
- DSS Player を使うとファイルをパソコンに転送して保存しておくことができます（☞ P61）。

録音に関する操作

一時停止する

録音中に**録音**ボタンを押します。

➥ ディスプレイの「録音ポーズ中」が点滅します。

- 録音一時停止のまま 10 分以上過ぎると停止状態になります。

一時停止を解除する

録音ボタンをもう一度押します。

➥ 一時停止したところから録音を再開します。

録音内容をすばやく確認する

録音中に**再生**ボタンを押します。

➥ 録音を中断し、今録音したファイルが再生されます。

録音に関する設定

ご購入後すぐに高音質録音ができるよう HQ モードが設定されていますが、ほかにも標準的な状態で録音できる SP モードや長時間録音が可能なLPモードが設定できます。状況に応じた録音モードをお選びください。
また本機は、メモリの節約ができる音声起動録音機能やマイク感度も設定できます。詳しくは下記のページを参照してください。

録音モード： HQ (高音質録音) モード／
SP (標準録音) モード／
LP (長時間録音) モード
(☞ P18)
マイク感度： 会議 / 口述（☞ P19）
音声起動録音：OFF/ON（☞ P16）
(VCVA)

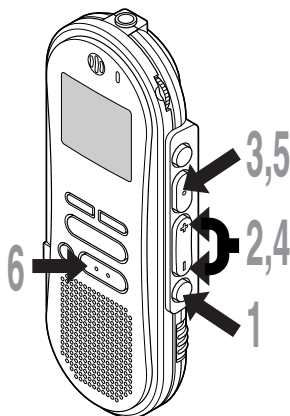
録音中に音を聞くとき(録音モニター)

イヤホンをイヤホンジャックに差し込むと録音中の音声を聞くことができます。
録音モニターの音量は音量つまみで調節できます。
音量をかえても録音レベルは変化しません。

ご注意

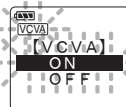
耳への刺激を避けるため、音量つまみを0にしてからイヤホンを入れてください。

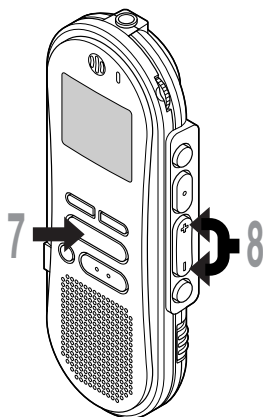
音声起動録音（VCVA）のしかた

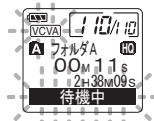
音声起動録音（VCVA）とは、設定した起動感度よりも大きな音声を感知すると自動的に録音が始まり、音声が小さくなると自動的に録音を一時停止する機能です。
会議中の長い沈黙などを自動的にカットして録音することによりメモリを節約することができます。

1 **メニューボタンを押す**
メニュー画面に入ります(☞ P47)。

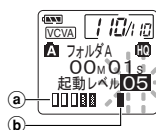
2 **早送り/＋または早戻し/－ボタンを押してVCVAの設定画面を表示する**

3 **再生ボタンを押す**
VCVAの設定を始めます。

4 **早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ**
ON…以降は音声起動録音になります。
OFF…通常の録音に戻ります。

5 **再生ボタンを押して設定を完了する**

6 **停止ボタンを押してメニュー画面を終了する**
「ON」を選択したときはディスプレイの VCVA 表示が点灯します。

7 **録音**ボタンを押して録音を開始する

設定した起動感度より音が小さくなると約1秒後に自動的に録音が一時停止します。このときディスプレイに「待機中」が点滅します。録音起動中は録音/再生表示ランプが赤く点灯し、一時停止すると点滅します。

8 録音中に**早送り/＋**または**早戻し/－**ボタンを押してVCVA の起動レベルを調節する

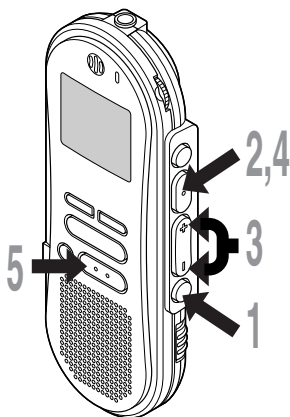
ディスプレイ上にVCVA起動レベルが15段階（1～15）で表示されます。数字が大きくなるほどVCVAの起動感度は高くなり、小さな音でも録音が始まるようになります。

ⓐ **レベルメータ**（録音音量にあわせて変化します）
ⓑ **起動レベル**（設定レベルに応じて左右に動きます）

ディスプレイの表示パターンをかえることができます（☞ P45）。

ご注意

- 起動レベルは設定されているマイク感度によっても異なります（☞ P19）。
- 起動レベルの調節は２秒以内に行わないと表示が元に戻ります。
- まわりの雑音が大きいなど、録音状況に応じてVCVAの起動感度を調節することができます。
- 失敗のない録音を行うために、事前に試し録音で起動感度を調節することをおすすめします。

録音モード（REC MODE）をかえる

録音モードは、HQ（高音質録音）、SP（標準録音）、LP（長時間録音）から選ぶことができます。HQモードで約4時間20分、SPモードで約10時間25分、LPモードで約22時間20分の録音が可能です。

1 メニューボタンを押す

ディスプレイに「録音モード」が表示されます（☞ P47）。

2 再生ボタンを押す

録音モードの設定を始めます。

3 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「HQ」「SP」「LP」を選ぶ

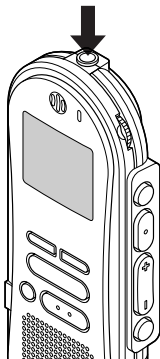
4 再生ボタンを押して設定を完了する

5 停止ボタンを押してメニュー画面を終了する

ご注意

会議や講演会などをはっきりと録音したい場合は、HQまたはSPモードに設定して録音してください。

外部マイクや他の機器から録音する

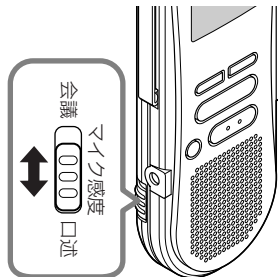
外部マイクや他の機器を接続し、音声を録音することができます。

マイクジャックに外部マイクや他の外部機器を接続する

使用目的に合わせてマイクなどのアクセサリー（別売）をご使用ください（☞ P80）。

ご注意

- マイクジャックに外部マイクをつなぐと、内蔵マイクは動作しなくなります。
- 本機では入力レベルの調節はできません。外部機器を接続するときは試し録音をして外部機器の出力レベルを調節してください。
- 本機から電源の供給を受けるプラグインパワー対応のマイクもご使用になれます。

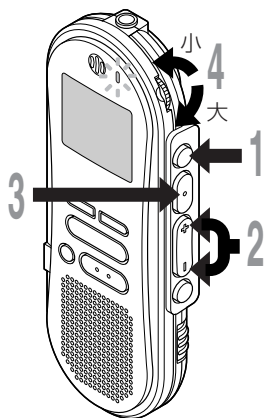
マイク感度をかえる

使用目的に合わせて内蔵マイクの感度を切り替えることができます。

マイク感度スイッチで「**会議**」か「**口述**」を選ぶ

会議 ...... 周囲の音も録音できる高感度モード
口述 ...... 口述録音に適した通常感度モード

ご注意

- 話し手の声をはっきりと録音したい場合は口述モードにして、本機の内蔵マイクロホンと話し手の口を近づけて（5〜10cm）録音してください。
- 口述モードで録音しても、周囲の雑音が録音に影響する場合は単一指向性マイクロホン ME12（別売）のご使用をおすすめします。

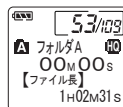
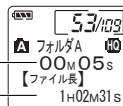
再生する

1 **フォルダ**ボタンを押してフォルダを選ぶ

2 **早送り/＋**または**早戻し/－**ボタンを押して再生したいファイルを選ぶ

早送り/＋または早戻し/－ボタンを押し続けると連続してファイルの頭出しをします。

3 **再生**ボタンを押して再生を開始する

録音/再生表示ランプが緑色に点灯します。

ⓐ 再生中のファイルの経過時間
ⓑ 再生中のファイルのトータル時間

4 **音量**つまみを調節して聞きやすい音量にする

フォルダ内の最終ファイルまで再生すると、「最終ファイルエンド」が表示され、再生が停止します。
ディスプレイの表示パターンをかえることができます（☞P44）。

再生に関する操作

再生中に音声ファイルの頭出しをする

再生中に**早送り / ＋**ボタンを押します。

➥ 次のファイルの頭出しをして*、再生を始めます。

再生中に**早戻し / －**ボタンを押します。

➥ 再生中のファイルの頭出しをして*、再生を始めます。

再生中に**早戻し / －**ボタンを 2 回押します。

➥ 1 つ前のファイルの頭出しをして*、再生を始めます。

* 途中にインデックスマーク（☞ P33）がついているときは、インデックスマークの位置で再生を始めます。

早聞き再生する

再生中に**再生**ボタンを押します。

➥ 通常の再生速度の約 1.5 倍の早さで再生します。

- 早聞き再生のときも通常再生と同じように、再生の停止、ファイルの頭出し、インデックスマークの挿入（☞ P33）などの操作ができます。
- 早聞き再生を停止した場合、次の再生は通常の再生速度に戻ります。
- 早聞き再生中、ノイズキャンセル機能は効きません。
- WMA ファイルは本機で録音したファイルに限り早聞き再生できます。

遅聞き再生する

早聞き再生中に**再生**ボタンを押します。

➥ 通常の再生速度の約0.75倍の早さで再生します。

- 遅聞き再生のときも通常再生と同じように、再生の停止、ファイルの頭出し、インデックスマークの挿入（☞ P33）などの操作ができます。
- 遅聞き再生を停止した場合、次の再生は通常の再生速度に戻ります。
- 遅聞き再生中、ノイズキャンセル機能は効きません。
- WMA ファイルは本機で録音したファイルに限り遅聞き再生できます。

遅聞き再生を解除する

もう一度**再生**ボタンを押します。

➥ 通常の再生速度に戻ります。

キュー（音を聞きながら早送り）

再生中に**早送り / ＋**ボタンを押し続けます。

- ファイルの終わりまで進むといったん停止します。早送り / ＋ボタンを押し続けると、次のファイルの先頭からキューを続けます。
- ファイルの途中にインデックスマークがついているとインデックスマークでいったん停止しますが、早送り / ＋ボタンを押し続けるとキューを続けます。

キューを解除する

聞きたいところでボタンを離します。

➥ 再生を始めます。

レビュー（音を聞きながら早戻し）

再生中に**早戻し / −**ボタンを押し続けます。

- ファイルの先頭まで戻るといったん停止します。早戻し/−ボタンを押し続けると、前のファイルの終わりからレビューを続けます。
- ファイルの途中にインデックスマークがついているとインデックスマークでいったん停止しますが、早戻し / −ボタンを押し続けるとレビューを続けます。

レビューを解除する

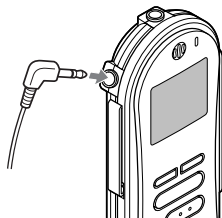
聞きたいところでボタンを離します。

➥ 再生を始めます。

再生を中止する

停止ボタンを押します。

➥ 現在再生しているファイルの途中で停止します。

イヤホンで聞くとき

イヤホンジャックにイヤホンを接続して聞くことができます。

イヤホンを接続するとスピーカから音は出ません。

ご注意

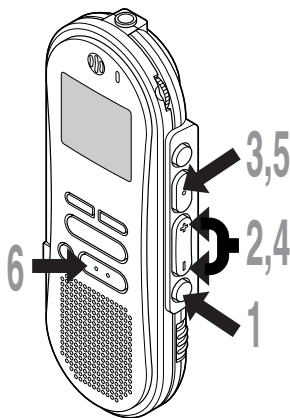
- 耳への刺激を避けるため、音量つまみを0にしてからイヤホンを入れてください。
- 再生中イヤホンで聞くときは音量をあまり上げないでください。聴覚障害、聴力低下を引き起こす恐れがあります。
- 本機は、両耳イヤホンであっても、モノラル再生になります。

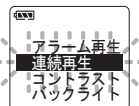
再生に関する設定

ご購入時は、1つのファイルを再生し終わると自動的に停止するように設定されていますが、そのまま次のファイルを連続して再生させることもできます。
また本機は、繰り返し再生するリピート再生機能や、聞き取りやすいように周囲の雑音を軽減するノイズキャンセル機能を備えています。詳しくは下記のページを参照してください。

連続再生：　　　　ON/OFF（☞ P24）
リピート再生：　　設定（☞ P25）
ノイズキャンセル：OFF/Low/High
（☞ P26）

連続再生（ALL PLAY）のしかた

再生中のファイルが終了後も、連続して次のファイルを再生することができます。

1 **メニューボタンを押す**
メニュー画面に入ります(☞ P47)。

2 **早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して連続再生の設定画面を表示する**

3 **再生ボタンを押す**
連続再生の設定を始めます。

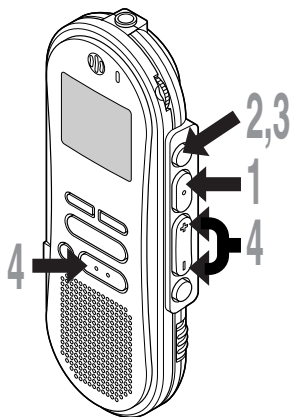
4 **早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ**
ON…以降は連続再生になります。
OFF…通常の再生に戻ります。

5 **再生ボタンを押して設定を完了する**

6 **停止ボタンを押してメニュー画面を終了する**

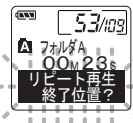
ファイルごとに再生を終了させたくないときは「ON」を選択してください。フォルダ内の最終ファイルまで再生すると、「最終ファイルエンド」が表示され、再生が停止します。

リピート再生する

再生中のファイルの一部分を繰り返し再生することができる機能です。

1 **リピート再生したいファイルを選び、再生ボタンを押す**

ファイルの再生を開始します。

2 **リピート再生を開始させたい位置でリピートボタンを短く押す**

終了位置を指定するまで「リピート再生終了位置？」が点滅します。

3 **リピート再生を終了させたい位置で、もう一度リピートボタンを短く押す**

リピート再生を解除するまで、開始位置と終了位置の間を繰り返し再生します。

4 **停止ボタンまたは早送り/＋(早戻し/ー)ボタンを押して停止する**

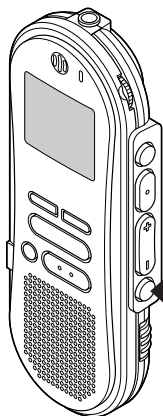
リピート再生を解除します。

リピート再生のときも通常再生と同じように、早聞き・遅聞き再生、インデックスマークの挿入・消去、ノイズキャンセル機能の設定などができます。

ご注意

- 終了位置を指定しないまま再生中のファイルの最後に到達すると、そこが終了位置となり、リピート再生が始まります。
- 早送り / ＋ボタンを 1 回押すか、早送り / ＋ボタンを押し続けると、再生中のファイルの最後に到達します。
- リピートボタンは短く押してください。1 秒以上押し続けるとファイル移動の設定画面が表示されます（☞ P42）。

ノイズキャンセルを設定する

録音した音声が聞き取りにくいときはノイズキャンセルを設定してください。周囲の雑音を低減し、よりクリアな音質で再生します。

1 再生中にメニューボタンを押す

現在設定されているノイズキャンセルレベルが表示されます。

2 もう一度メニューボタンを押してノイズキャンセルレベルをかえる

メニューボタンを押すたびに、「Low」「High」「OFF」の順番でノイズキャンセルレベルが切り替わります。

再生開始直後の変更

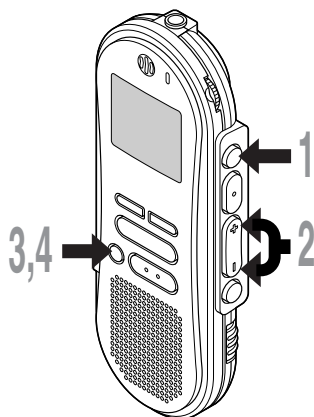
ノイズキャンセルレベルが「Low」または「High」に設定されているときは、再生開始時に２秒間ノイズキャンセルレベルが表示されます。この表示中は１回目のメニューボタン押しで「Low」「High」「OFF」が切り替わります。

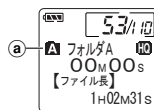
ご注意

- 現在の設定が点滅中にノイズキャンセルレベルを変更しないと、表示中のレベルで確定され、表示が元に戻ります。
- ノイズキャンセルレベルを「Low」または「High」にすると、その設定は「OFF」にするまで有効になります。
- ノイズキャンセルレベルを「Low」または「High」にすると、早聞き・遅聞き再生ができません。
- WMA ファイルは本機で録音したファイルに限りノイズキャンセルを設定できます。

消去する

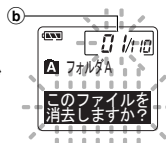
ファイルを 1 件ずつ消去する

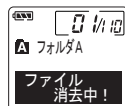
フォルダ内の消去したいファイルを消去できます。

1 フォルダボタンを押してフォルダを選ぶ

ⓐ 現在のフォルダ

2 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して消去したいファイルを選ぶ

3 消去ボタンを押す

「このファイルを消去しますか?」が約8秒間点滅します。

ⓑ 消去したいファイル

4 「このファイルを消去しますか?」が点滅中にもう一度消去ボタンを押す

ディスプレイが「ファイル消去中!」にかわり、消去を開始します。

「消去完了」と表示されたら終了です。
消去したファイル以降のファイル番号は自動的に繰り上がります。

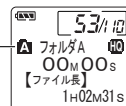
ご注意

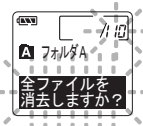
- 「このファイルを消去しますか?」が点滅してから８秒以内に消去ボタンが押されないと停止状態に戻ります。
- 一度消去したファイルは元に戻すことができません。
- 消去ロック設定のあるファイルは消去されません（☞ P29）。

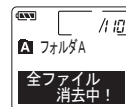
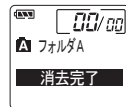
フォルダ内のファイルをすべて消去する

選んだフォルダ内のファイルすべてを消去できます。
ただし消去ロック設定のあるファイルは消去されません（☞ P29）。

1 フォルダボタンを押して全ファイルを消去したいフォルダを選ぶ

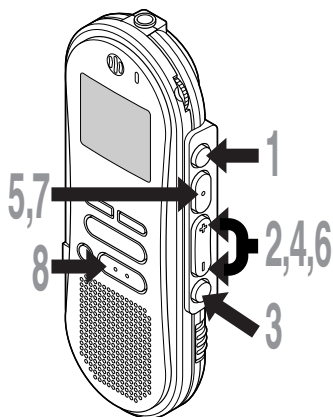
ⓐ 消去したいフォルダ

2 消去ボタンを3秒以上押す

「全ファイルを消去しますか?」が約8秒間点滅します。

3 「全ファイルを消去しますか?」が点滅中にもう一度消去ボタンを押す

ディスプレイが「全ファイル消去中!」にかわり、消去を開始します。

「消去完了」と表示されたら終了です。
消去ロックの設定されているファイルは、ファイル番号の小さい順にあらためて「1」からファイル番号がつきます。

ご注意

- 「全ファイルを消去しますか?」が点滅してから８秒以内に消去ボタンが押されないと停止状態に戻ります。
- 消去を完了するまで数十秒かかることがあります。

誤消去を防止（LOCK）する

ファイルに消去ロックをかけることにより、重要なファイルの誤消去を防止できます。
また、フォルダ内のファイル全消去を行っても消去されません（☞ P28）。

1 フォルダボタンを押してフォルダを選ぶ

2 早送り/＋または早戻し/−ボタンを押して消去ロックをかけたいファイルを選ぶ

3 メニューボタンを押す

メニュー画面に入ります（☞ P47）。

4 早送り/＋または早戻し/−ボタンを押して消去ロックの設定画面を表示する

5 再生ボタンを押す

消去ロックの設定を始めます。

6 早送り/＋または早戻し/−ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ

ON…消去ロックがかかります。
OFF…消去ロックが解除されます。

ⓐ 消去ロックをかけたいファイル

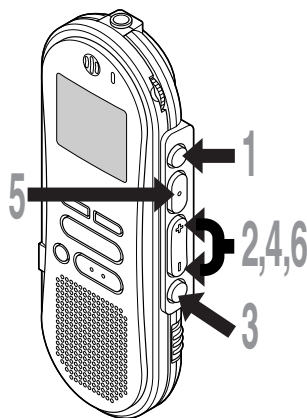
7 再生ボタンを押して設定を完了する

8 停止ボタンを押してメニュー画面を終了する

ご注意

消去ロックをかけたファイルでも、初期化（FORMAT）した場合は消去されます。

アラーム再生(ALARM)を使う

アラーム再生とは設定した時刻にアラーム音を鳴らし、アラームが鳴っている間にいずれかのボタンを押すと、あらかじめ設定したファイルを再生する機能です。

1 **フォルダ**ボタンを押してフォルダを選ぶ

2 **早送り/＋**または**早戻し/ー**ボタンを押してアラーム再生したいファイルを選ぶ

3 **メニュー**ボタンを押す

メニュー画面に入ります(☞ P47)。

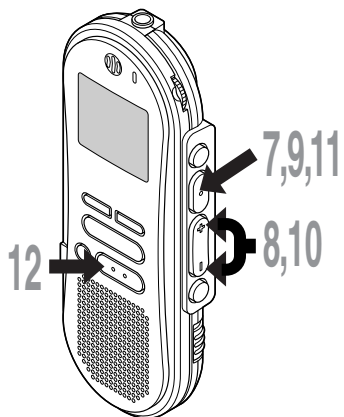
4 **早送り/＋**または**早戻し/ー**ボタンを押してアラーム再生の設定画面を表示する

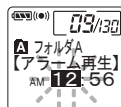
5 **再生**ボタンを押す

アラーム再生の設定を始めます。

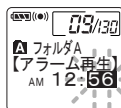
6 **早送り/＋**または**早戻し/ー**ボタンを押して「ON」を選ぶ

ON…アラーム再生をします。

OFF…アラーム再生を解除します。

7 再生ボタンを押して確定する

「時」が点滅します。
「OFF」を選択するとアラーム再生の設定を中止し、アラーム表示は消えます。
☞ 手順12へ

8 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「時」を設定する

9 再生ボタンを押して確定する

「分」が点滅します。

10 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「分」を設定する

11 再生ボタンを押して設定を完了する

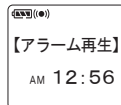
12 停止ボタンを押してメニュー画面を終了する

アラーム再生時刻になると「ピーピー・・・」とアラーム音が鳴り出します。アラーム音が鳴っている間にいずれかのボタンを押すと、設定したファイルが再生されます。

ご注意

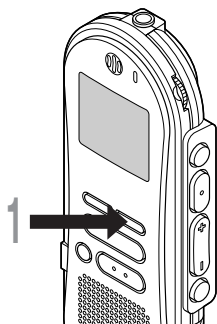
- アラーム再生は 1 つのファイルのみ設定できます。
- アラーム再生の設定を解除しないと、毎日設定された時刻にアラーム音が鳴り始めます。
- アラーム再生するファイルをかえる場合は、一度アラームの設定を「OFF」にしてから、再度設定を行なってください。
- アラームは鳴り始めて５分たつと止まります。
- アラームを設定した時刻に本機を操作している場合は、操作後アラームが鳴り出します。
- ホールドになっていても、アラーム再生の設定時刻になると、アラームが鳴り出します。この場合はホールド中でもいずれかのボタンを押すと設定したファイルの再生を始めます。
- 設定したファイルを消去すると、アラーム再生の設定は解除されます。

アラーム音のみ鳴らしたいとき

設定した時刻にアラーム音のみ鳴らしたいときは、選択したフォルダのファイル数が0件の状態で設定します。

【アラーム再生】
AM 12:56

- 「アラーム再生を使う」の手順3（☞ P30）から設定を始めます。
- 設定時刻になってアラーム音が鳴ったとき、いずれかのボタンを押すと止まります。

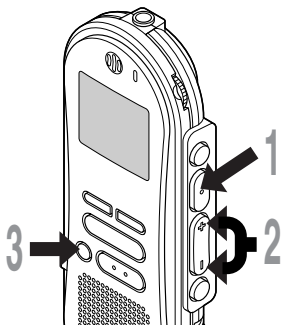
インデックスマークをつける

1 つのファイル内で聞きたい位置をすばやく探すことができるように、インデックスマークをつけることができます。インデックスマークがあると、再生中に早送り/＋または早戻し/－ボタンを操作することで、すばやく聞きたい位置から再生できます。

インデックスマークをつける

1 録音中または再生中にインデックスボタンを押してインデックスマークをつける

ディスプレイにインデックス番号が表示され、インデックスマークがつきます。

インデックスマークをつけた後も録音または再生は続きますので、同様の操作で別の場所にインデックスマークをつけることができます。

インデックスマークを消去する

1 消去したいインデックスマークのあるファイルを再生する

2 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して消去したいインデックスマークを選ぶ

3 ディスプレイにインデックス番号が表示されている間(約2秒間)に消去ボタンを押す

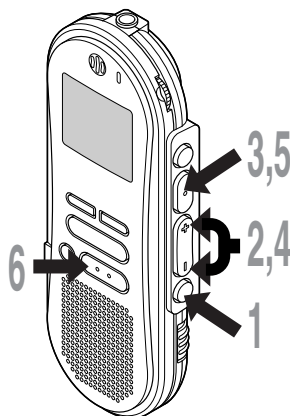
インデックスマークが消去されます。

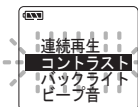
消去したインデックスマーク以降のインデックス番号は自動的に繰り上がります。

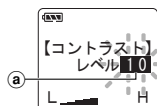
ご注意

- インデックスマークは 1 つのファイル内に最大で16件までつけることができます。16件を超えてインデックスマークをつけようとすると、「これ以上記録できません」と表示されます。
- 消去ロックをかけてあるファイルは、インデックスマークをつけたり消去することができません。
- WMA ファイルは本機で録音したファイルに限りインデックスマークをつけることができます。

ディスプレイのコントラスト（CONTRAST）を調整する

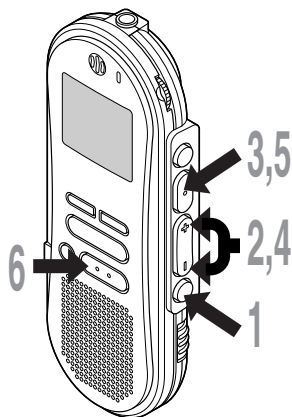
ディスプレイのコントラストを 20 段階に調整できます。

1 **メニューボタンを押す**
メニュー画面に入ります(☞ P47)。

2 **早送り/＋**または**早戻し/ー**ボタンを押してコントラストの設定画面を表示する

3 **再生**ボタンを押す
コントラストの設定を始めます。

4 **早送り/＋**または**早戻し/ー**ボタンを押してレベルの調整をする
「1」から「20」の間で調整を行います。
ⓐ コントラストレベル

5 **再生**ボタンを押して設定を完了する

6 **停止**ボタンを押してメニュー画面を終了する

バックライト(BACKLIGHT)について

ボタンを押すたびにディスプレイのバックライトが約10秒間点灯するので、暗いところでも表示が確認できて便利です。

1 メニューボタンを押す

メニュー画面に入ります(☞ P47)。

2 早送り/+または早戻し/−ボタンを押してバックライトの設定画面を表示する

3 再生ボタンを押す

バックライトの設定を始めます。

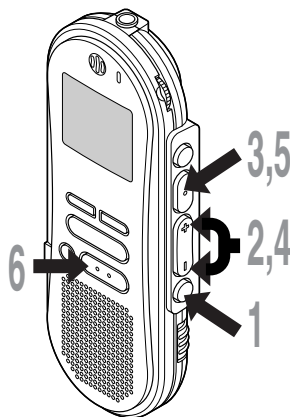
4 早送り/+または早戻し/−ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ

ON…バックライトを設定します。
OFF…バックライトを解除します。

5 再生ボタンを押して設定を完了する

6 停止ボタンを押してメニュー画面を終了する

ビープ音（BEEP）について

本機はボタン操作を知らせたり誤操作を警告したりするときにビープ音が鳴ります。
ビープ音を出したくないときは鳴らないように設定することもできます。

1 メニューボタンを押す
メニュー画面に入ります（☞ P47）。

2 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押してビープ音の設定画面を表示する

3 再生ボタンを押す
ビープ音の設定を始めます。

4 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ

5 再生ボタンを押して設定を完了する

6 停止ボタンを押してメニュー画面を終了する

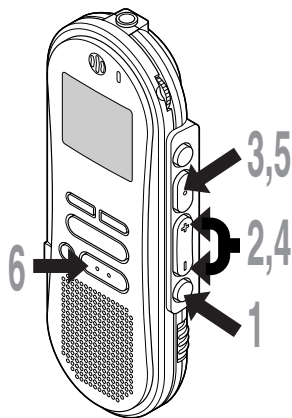
アラーム再生が設定されている場合はビープ音の設定がOFFでも、設定時刻にアラーム音が鳴ります。

ビープ音の種類

音	内容
ピッ	再生や録音の開始、表示の切り替え
ピピッ	各種の設定、USB コネクタの挿入
プップッ	録音の一時停止
ププッ	再生や録音の停止、頭出しの停止、連続頭出しの停止
プッ	頭出し

音	内容
ポッ	前のファイルへの頭出し
ピピピピッ	誤操作の警告
ププーププー	操作の終わり
ピーピーピー…	アラーム再生
プー	録音可能な残り時間がわずかなときの警告（☞ P14）

言語選択（LANGUAGE）のしかた

本機は日本語表示と英語表示のどちらかを選ぶことができます。

1 メニューボタンを押す

メニュー画面に入ります(☞ P47)。

2 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して言語選択の設定画面を表示する

3 再生ボタンを押す

言語選択の設定を始めます。

4 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して「日本語」か「English」を選ぶ

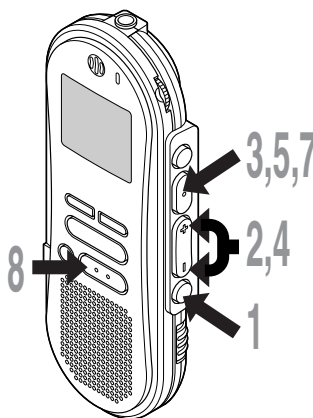
5 再生ボタンを押して設定を完了する

6 停止ボタンを押してメニュー画面を終了する

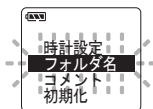
ご注意

表示言語を切り替えても、すでに入力してあるフォルダ名やファイルにつけたコメントの言語がかわることはありません。

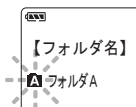
フォルダ名（FOLDER NAME）をつける

５つのフォルダに全角４文字（半角８文字）以内の名前をつけることができます。また「会議」や「スケジュール」「プライベート」といったよく使われる単語は、あらかじめテンプレートに登録されているので入力する手間がいりません。

1 メニューボタンを押す

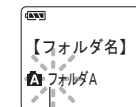
メニュー画面に入ります(☞ P47)。

2 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押してフォルダ名の設定画面を表示する

3 再生ボタンを押す

フォルダ名の設定を始めます。

4 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して名前をつけるフォルダを選ぶ

5 再生ボタンを押して名前をつけるフォルダを確定する

現在のフォルダ名の先頭の文字が点滅します。

ⓐ **入力中の文字**（スペースは黒の点滅）

6 文字を入力する

文字は挿入入力されます。文字の選びかた（①②③）や入力できる文字は次の通りです。

文字入力時のボタンの割り当て

ボタン	押しかた	本機の動作
再生ボタン	短く押す	文字決定し、次文字へ進む
	長く押す	フォルダ名・コメントを決定
早送り / ＋ボタン	短く押す	入力文字の選択　次へ進む
	長く押す	入力文字の早送り
早戻し / －ボタン	短く押す	入力文字の選択　前に戻す
	長く押す	入力文字の早戻し
フォルダボタン	—	点滅を前に戻す
消去ボタン	—	点滅中の文字を消す
インデックスボタン	短く押す	文字グループを選択　「入力できる文字」にあるグループ単位順に、先頭の文字を表示
	長く押す	入力グループの早送り
表示ボタン	短く押す	入力文字の選択　５文字飛ばし
	長く押す	入力文字の選択　５文字飛ばしの早送り

① **早送り/＋**ボタンまたは**早戻し/－**ボタンを押すと文字が前後します。

② **インデックス**ボタンを押すと次の文字グループの先頭文字が表示されます。最初に文字グループを決定すれば、入力したい文字にすばやくたどり着けます。

（スペース）
テンプレート .... 会議
半角英大文字 .... A
半角英小文字 .... a
半角数字 1
半角カタカナ .... ｱ
全角ひらがな .... あ
全角記号 .... ,

③ **表示**ボタンを押すと以下の順に5文字ごとにスキップして表示を行います。

「　」(スペース)→「会議」→「スケジュール」→「A」→「F」→「K」→「P」→「U」→「Z」→「a」→「f」→「k」→「p」→「u」→「z」→「１」→「6」→「ｱ」→「ｶ」→「ｻ」→・・・→「ﾗ」→「ﾜ」→「ﾝ」→「ｧ」→「ｬ」→「ｯ」→「ﾞ」→「あ」→「か」→「さ」→・・・→「ら」→「わ」→「ん」→「ぁ」→「ゃ」→「っ」→「が」→「ざ」→「だ」→「ば」→「ぱ」→「ー」→「,」→「？」→「～」→「￥」→「＊」→「　」(スペース)→・・・

上記以外の文字を選択中に表示ボタンを押すと、その直後の文字にスキップします。
（「出張」表示中に表示ボタンを押すと「スケジュール」に、「い」表示中に表示ボタンを押すと「か」になります）

入力できる文字＊

文字グループ		表示する順番
テンプレート	フォルダ名入力	会議→商談→出張→講義→重要→スケジュール→メモ→プライベート→ TO DO →その他
	コメント入力	優先→重要→メモ→アイデア→会議／講演→語学学習→インタビュー→スケジュール→備忘録→ TO DO
半角英大文字		A → B → C →・・・・→ X → Y → Z
半角英小文字		a → b → c →・・・・→ x → y → z
半角数字		1 → 2 → 3 →・・・・→ 8 → 9 → 0
半角カタカナ		ｱ→ｲ→ｳ→・・・・→ﾜ→ｦ→ﾝ→ｧ→ｨ→ｩ→ｪ→ｫ→ｬ→ｭ→ｮ→ｯ→ﾞ→ﾟ→ｰ
全角ひらがな		あ→い→う→・・・・→わ→を→ん→ぁ→ぃ→ぅ→ぇ→ぉ→ゃ→ゅ→ょ→っ→が→・・・→ご→ざ→・・・→ぞ→だ→・・・→ど→ば→・・・→ぼ→ぱ→・・・→ぽ→ー
全角記号		，→．→・→：→；→？→！→＿→―→／→～→（→）→【→】→￥→＄→％→＃→＆→＊→＠→★→※→〒

＊ DSS Playerを使用すればテンプレートを自由に変更できます。またパソコンのキーボードから直接フォルダ名やコメントの入力が行えます。

7 フォルダ名を入力し終わったら**再生**ボタンを1秒以上押し続ける

新しいフォルダ名の入力を完了します。

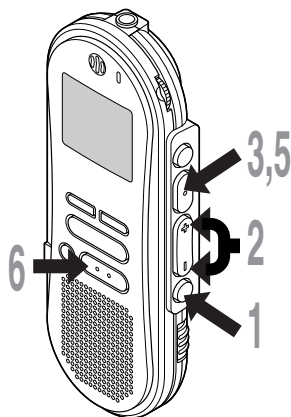
（他のフォルダの名前を続けて入力したいときは再生ボタンを押して、手順4から設定を始めます。）

8 **停止**ボタンを押してメニュー画面を終了する

ご注意

- 入力した単語を決定することで制限文字数を超えた場合、はみ出した文字、あるいは制限文字数以内であるにも関わらず表示されない文字は自動的に消去されます。
- 入力中「文字数オーバーです」と表示されたら、もう一度入力し直してください。

コメント（COMMENT）をつける

全角50文字（半角100文字）以内で録音したファイルにコメントをつけることができます。日付や時間だけでなくさらに多くの情報を盛り込むことで、録音したファイルの内容や状況などがひと目で分かるようになります。

1 メニューボタンを押す

メニュー画面に入ります(☞ P47)。

2 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押してコメントの設定画面を表示する

3 再生ボタンを押す

コメントの設定を始めます。

4 文字を入力する

本機で文字入力を行う場合は「フォルダ名をつける」の手順6(☞ P38)を、パソコンで入力を行う場合は「コメントを編集する」(☞ P69)をご覧ください。

5 コメントを入力し終わったら再生ボタンを1秒以上押し続ける

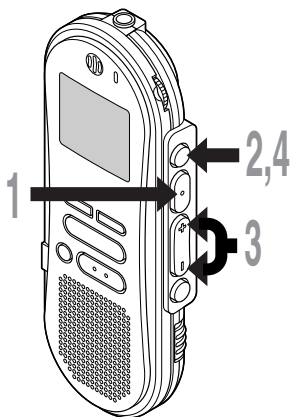
コメントの入力を完了します。

6 停止ボタンを押してメニュー画面を終了する

ご注意

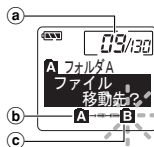
WMAファイルは本機で録音したファイルに限りコメントをつけることができます。

ファイルを移動する

録音したファイルを別のフォルダに移動することができます。移動したファイルは移動先のフォルダの一番最後に加えられます。

1 移動させたいファイルを選び再生ボタンを押して再生する

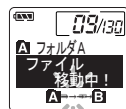
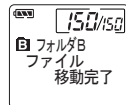
2 再生中にフォルダボタンを1秒以上押す

再生が停止してディスプレイに移動先のフォルダが点滅します。

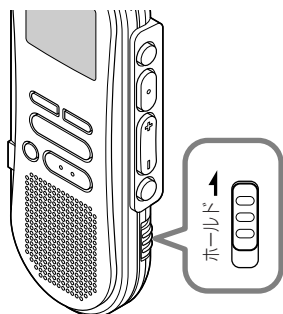
ⓐ 移動したいファイル
ⓑ 現在のフォルダ
ⓒ 移動先のフォルダ

3 早送り/＋または早戻し/ーボタンを押して移動先のフォルダを選ぶ

移動先に元のフォルダを選ぶと、そのフォルダ内の一番最後にファイルが移動します。

4 再生ボタンを押して移動先のフォルダを確定する

矢印の点滅が左から右に移動し、ファイルの移動が始まります。

「ファイル移動完了」と表示されたら終了です。

ご注意

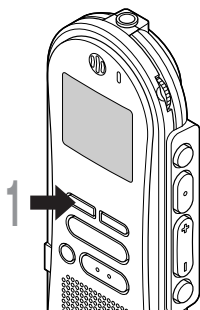
- 移動先のフォルダの録音件数が最大（199）のときは、「件数オーバーで移動できません」と警告表示され、移動できません。
- 移動先のフォルダを選ぶとき、停止ボタンを押すか、8秒間操作をしないとファイル移動を中止します。

誤操作を防止する－ホールド（HOLD）機能

ホールドにすると現在の状態を保ち、ボタンやスイッチ操作を受け付けません。かばんやポケットに入れたとき、誤ってボタンが押されても動作しないので、持ち運ぶときなどに便利です。

使用するときは必ずホールドスイッチを解除してください。

ご注意

- 停止状態でホールドにするとディスプレイが消灯します。このときいずれかのボタンを押すと、時計表示が約２秒間点滅しますが、動作しません。
- 再生（もしくは録音）中にホールドにすると、再生(録音）状態のまま操作ができなくなります。（再生が終了したり、メモリ残量がなくなって録音が終了すると停止状態になります。）
- 録音、再生中にホールドにしても、以下の操作はできます。
  — マイク感度スイッチによるマイク感度切り替え
  — ボリュームつまみによる音量調節
- ホールド中でもアラーム再生（☞ P30）の設定時刻になるとアラームが鳴り出します。このときはホールド中でもボタンの操作ができます。

ディスプレイ表示をかえる

本機はディスプレイ表示の切り替えが可能です。停止・再生中または録音中に表示ボタンを押すとディスプレイ表示が切り替わり、ファイルに関する情報や本機の状態が確認できます。

1 表示ボタンを押す

表示ボタンを押すたびにディスプレイの表示パターンがかわります。

停止・再生中の表示パターン

①から⑥を繰り返し表示します。ただしファイル数が0件のときは⑤と⑥を交互に表示します。

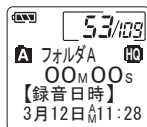
① ファイル長

ファイルの長さを表示します

② タイムスタンプ

録音した年･月･日を表示します

③ タイムスタンプ

録音した月･日･時･分を表示します

④ コメント

ファイルに対するコメントを表示*します(コメントが未入力のときは「－－－－」を表示)

53/109
A フォルダA HQ
00M00S
【コメント】
語学学習

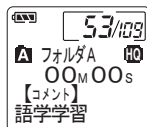
⑤ メモリ残量

録音可能な残り時間を表示します

53/109
A フォルダA HQ
00M00S
【メモリ残量】
2H16M20S

⑥ 現在日時

現在日時を表示します(再生中は【現在日時】表示部分がカウンター表示)

53/109
A フォルダA HQ
【現在日時】
2002年 3月14日
PM10時35分

＊ 文字数が多いときは横にスクロールして表示します。(停止中はコメントが1周した後1行目を表示、再生中はコメントを繰り返し表示)

録音中の表示パターン

①から③を繰り返し表示します。

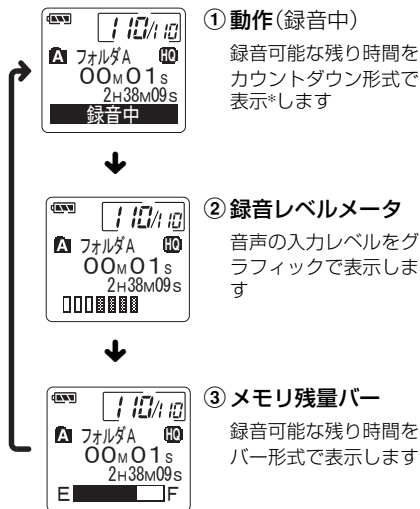
① **動作**(録音中)

録音可能な残り時間をカウントダウン形式で表示*します

② **録音レベルメータ**

音声の入力レベルをグラフィックで表示します

③ **メモリ残量バー**

録音可能な残り時間をバー形式で表示します

* 録音可能な残り時間は②と③でも表示されます

VCVA 録音中の表示パターン

①から③を繰り返し表示します。

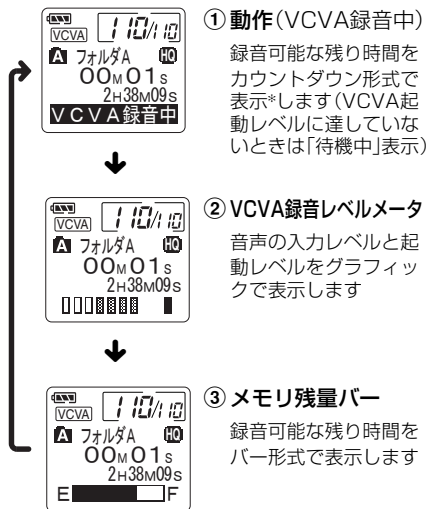
① **動作**(VCVA録音中)

録音可能な残り時間をカウントダウン形式で表示*します(VCVA起動レベルに達していないときは「待機中」表示)

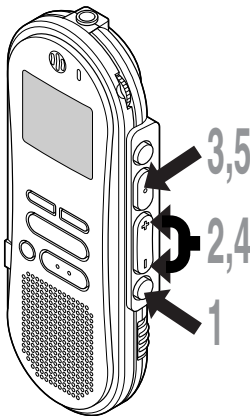
② **VCVA録音レベルメータ**

音声の入力レベルと起動レベルをグラフィックで表示します

③ **メモリ残量バー**

録音可能な残り時間をバー形式で表示します

* 録音可能な残り時間は②と③でも表示されます

初期化（FORMAT）する

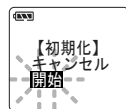
初期化すると記録されている音声ファイルはすべて消去され、年月日時分の設定を残し、各機能の設定が購入時の状態に戻ります。大切なファイルはパソコンに転送してから初期化してください。

1 メニューボタンを押す

メニュー画面に入ります(☞ P47)。

2 早送り/＋または早戻し/－ボタンを押して初期化の設定画面を表示する

3 再生ボタンを押す

初期化を設定します。

4 早送り/＋または早戻し/－を押して「開始」を選ぶ

5 もう一度再生ボタンを押す

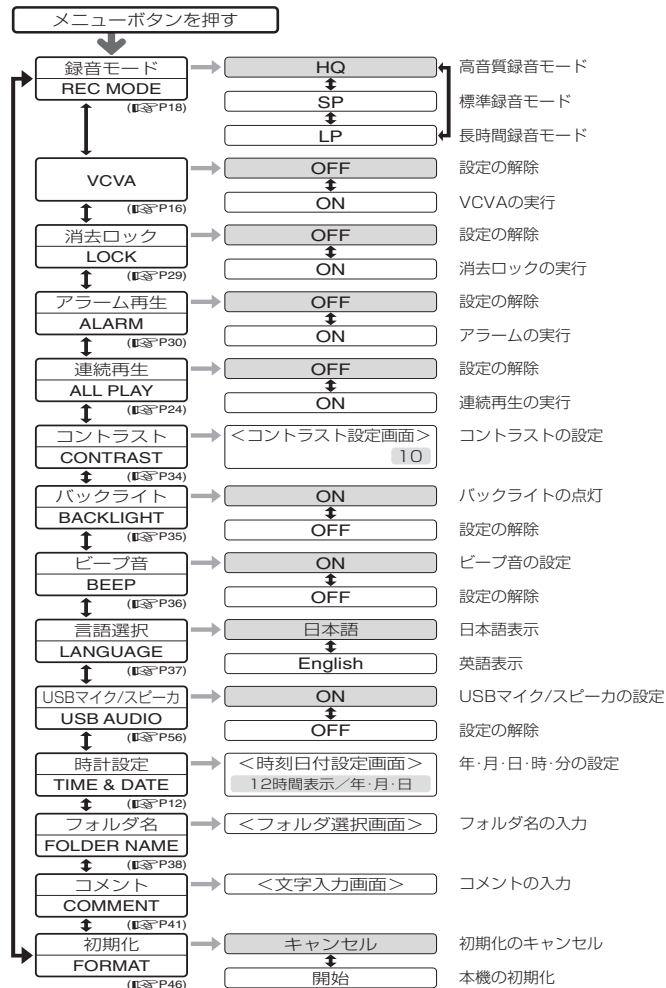
「初期化中!」と表示され、初期化を開始します。

ⓐ **初期化バー**（進行にあわせて黒色部分が右に動きます）

「初期化完了」と表示されたら終了です。

ご注意

- 手順４のあと８秒間何も操作しない場合は手順２に戻ります。
- 初期化をすると消去ロックをかけたファイルを含む既存のデータはすべて消去されます。

メニューの一覧

上段：日本語表示
下段：English表示

- メニューボタンを押す
- 早送り/＋または早戻し/－ボタン（選択ボタン）を押す
- 再生ボタン（決定ボタン）を押す
- 初期設定

ご注意

- メニューの設定中に停止ボタン、録音ボタン、メニューボタンを押すと、それまでに設定した項目を確定して停止状態になります。
- メニューの設定中に3分間何も操作しない場合は、停止状態に戻ります。このとき選択途中の項目は設定されません。

DSS Playerを使う

本機はパソコンと接続し、DSS Player を使うことで次のようなことができます。

- パソコンで音声ファイルを再生する
- 音声ファイルを電子メールに添付して声のメールとして送る＊
- 本機の音声ファイルをハードディスクにバックアップしたり、パソコンから本機にファイルを転送する

＊ 本商品に電子メールソフトは同梱しておりません。

パソコンの動作環境

Macintosh

対応パソコン	iMac、iBook、Power Mac G3/G4、PowerBook G3（ただしUSBポートを標準で装備した機種）
OS(オペレーティングシステム)	Mac OS 8.6/9.0/9.1/9.2/10.1
RAM 容量	16MB 以上の RAM
ハードディスク空き容量	5MB以上(この他に音声用の空き容量が必要)
ドライブ	2 倍速以上の CD-ROM ドライブ
ディスプレイ	800 × 600 ドット、256 色以上
USB ポート	１つ以上の空き
オーディオ入出力端子	イヤホン（またはスピーカ）出力端子

Windows

対応パソコン	DOS/V 機（IBM PC/AT 互換機）
OS(オペレーティングシステム)	Microsoft Windows 98/98 SE/Me/2000 Professional（以降 Windows 2000 と表記）/XP Professional,Home Edition（以降 XP と表記）
CPU	Pentium II 333MHz 以上（Pentium III 以上を推奨）
RAM 容量	64MB 以上（128MB 以上を推奨）
ハードディスク空き容量	10MB 以上
ドライブ	2 倍速以上の CD-ROM または CD-R、CD-RW、DVD-ROM ドライブ
サウンドボード	Creative Labs Sound Blaster16または 100%互換のサウンドボード
ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 4.01 以上
ディスプレイ	800 × 600 ドット、256 色以上
USB ポート	１つ以上の空き
オーディオ入出力端子	マイク入力端子、スピーカ出力端子

マウス、またはそれに類するポインティングデバイス

ご注意

- NEC PC-9821 シリーズのサポートはしておりません。（PC-9821 をお客様でクロックアップやメモリ拡張したものを含みます）
- パソコンがUSBポートを備えていても、Windows 95 から Windows 98/Me/2000/XP にアップデートした場合はサポート対象外となります。
- 動作環境を満たしていても、自作パソコンでの不具合は動作保証外とさせて頂いております。
- パソコンの動作が不安定になる恐れがありますので、Windows 98 ではUSBマイク/スピーカとしてご使用にならないでください。（Windows 98SE 以降の OS でお使いください）

表記について

本書では次のコンピュータを想定して説明しています。お客様の環境と異なる場合は、説明内容にしたがいそれぞれお客様の環境に適するように置き替えて解釈してください。

（Macintosh）

- MacOS 9.0 を使用しているものとして解説します。

（Windows）

- １台目のハードディスクをCドライブとして解説します。
- １台目のフロッピーディスクをAドライブとして解説します。
- １台目のCD-ROM ドライブをＤドライブとして解説します。
- Windows Me を使用しているものとし、Windowsのインストール先のパスをC:¥Windowsとして解説します。

また、お客様が パソコンの基本操作に慣れていることを前提にしています。

パソコンの操作については、ご使用のパソコン取扱説明書をご覧ください。分からない用語については、「用語の説明」をご覧ください（☞ P79）。

ソフトウェアのインストール

DSS Player をお使いになる場合、パソコンにインストールする必要があります。**本機とパソコンを USB 接続ケーブルでつなぐ前に、ソフトウェアのインストールを行ってください。**

インストール前の確認事項

- 起動しているアプリケーションは、すべて終了してください。
- フロッピーディスクドライブにディスクが入っている場合は抜いてください。
- ネットワークに接続して Windows 2000/XP（Professional のみ）をお使いの場合は、Administrator に所属しているユーザ名でログインしてください。

Windows

1 Windowsを起動する

2 付属のDSS PlayerをCD-ROMドライブに挿入する

自動的にインストールプログラムが起動します。起動した場合は手順5に進み、起動しない場合は次の手順3、4にしたがって進んでください。

3 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行(R)...]を選ぶ

4 [名前(O):]に「D:¥Setup.exe」と入力して[OK]ボタンをクリックする

CD-ROMドライブがD:と仮定します。

5 DSS Playerのオープニング画面が表示されたら[次へ(N)>]をクリックする

6 [使用許諾契約]

DSS Playerをインストールするには、この契約に同意していただく必要があります。同意いただける場合、[はい(Y)]をクリックしてください。

7 [インストール先の選択]

DSS Playerのインストール先を変更するときは[参照(R)...]を、変更の必要がなければ[次へ(N)>]をクリックします。
変更しない場合は、C:¥Program Files¥Olympus¥DSS Player5となります。

8 [新しいフォルダの確認]

インストール先のフォルダが存在しない場合、作成確認の画面が表示されますので[はい(Y)]をクリックします。

9 [プログラム フォルダの選択]

プログラムフォルダの選択ができます。変更の必要がなければ[次へ(N)＞]をクリックします。

10 [現在の設定]

現在の設定を確認します。よろしければ[次へ(N)＞]をクリックし、プログラムフォルダやインストールフォルダを変えたいときは[＜戻る(B)]をクリックし、変更してください。

11 ファイルコピーの開始

DSS Playerが自動的にインストールされますので、しばらくお待ちください。このとき他の作業は行わないでください。

12 [Install Shield ウィザードの完了]

[完了]をクリックします。
再起動を要求された場合は[はい、今すぐコンピュータを再起動します]を選び、[完了(F)]をクリックします。

ご注意

- すでにDSS Player 4がインストールされている場合は、自動的にDSS Player 5にバージョンアップされます。
- DSS Player 4 対応の機種（DS-650、DS-1、DM-1）もDSS Player 5をご使用いただけます。

Macintosh

1 Macintoshを起動する

2 付属のDSS PlayerをCD-ROMドライブに挿入する

3 「DSS Player for Mac Installer」アイコンをダブルクリックする

インストールプログラムが起動します。

4 DSS Playerのオープニング画面が表示されたら[続ける]をクリックする

5 [使用許諾契約]

DSS Playerをインストールするには、この契約に同意していただく必要があります。同意いただける場合、[同意します]をクリックしてください。

6 [フォルダの選択]

DSS Playerのインストール先を指定します。変更の必要がなければ、[選択] をクリックします。
OS10.1をお使いの方は手順8に進んでください。

7 コンピュータの再起動の確認

DSS Player for Macインストール完了後に、コンピュータの再起動が必要があります。インストールを続行する場合は、[はい]をクリックします。インストールを中止する場合は、[いいえ]をクリックします。

8 インストールの完了

インストールが完了しました。[終了] または [再起動] をクリックします。更にインストールを続けるには [続ける]をクリックします。

ソフトウェアのアンインストール

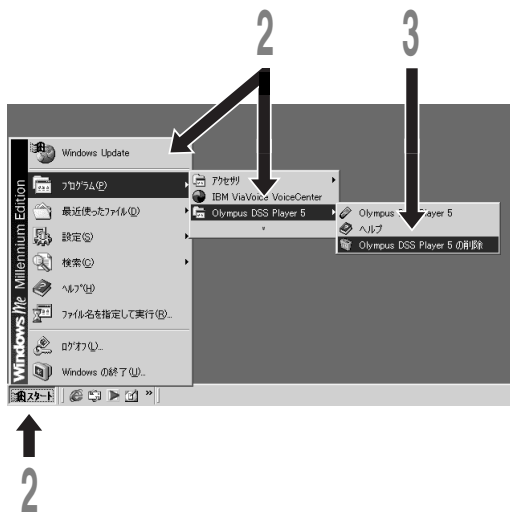
パソコンからソフトウェアを取り除くことをアンインストールと呼びます。アンインストールは、ソフトウェアが必要なくなったときに行ってください。

Windows

1 DSS Playerを終了する

2 [スタート]→[プログラム(P)]→[Olympus DSS Player 5]の順に選ぶ

3 [Olympus DSS Player 5の削除] をクリックする

4 画面の指示にしたがいアンインストールする

Macintosh

1 DSS Playerを終了する

2 Macintosh HDをダブルクリックする

OS10.1をお使いの方は手順5に進んでください。

3 システムフォルダ内の機能拡張から以下の8つのドライバを削除する

（OS8,9のみ）
「DSS10USBDriver」
「DSS10USBShim」
「DSS1USBDriver」
「DSS1USBShim」
「DSSFSUSBDriver」
「DSSFSUSBShim」
「DSSUSBDriver」
「DSSUSBShim」

4 システムフォルダ内のヘルプから以下のフォルダを削除する

（OS8,9のみ）
「DSS Player for Mac ヘルプ」

5 システムフォルダ内の初期設定から以下のファイルを削除する

「DSS Preference」
（OS10.1はUserフォルダ：Libraryフォルダ：Preferenceフォルダ内にあります）

6 DSS Player for Macフォルダを削除する

オプション設定で「Message Folder」を新しく作成していたら、その「Message Folder」も削除してください。

オンラインヘルプの使いかた

オンラインヘルプを表示するには、次のいずれかを行ってください。

(Windows)

- [スタート] → [プログラム (P)] → [Olympus DSS Player 5] → [ヘルプ] を選択する。
- DSS Playerを起動した状態で、[ヘルプ (H)] メニューから [トピックの検索 (C)] を選択する。
- DSS Player を起動した状態で、キーボードの [F1] キーを押す。

(Macintosh)

- DSS Player を起動した状態で、[ヘルプ] メニューから [DSS Player for Mac ヘルプ] を選択する。

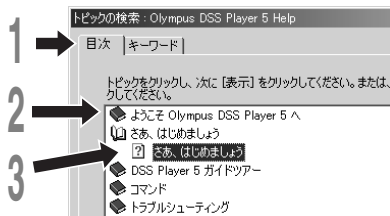
目次で検索する

1 オンラインヘルプを表示させてから、目次のタブをクリックする

2 検索したい項目の をダブルクリックする

選択項目のタイトルが表示されます。

3 検索したい項目の ? をダブルクリックする

選択項目の説明が表示されます。

キーワードで検索する

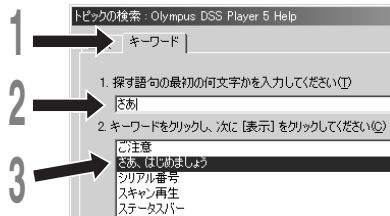
1 オンラインヘルプを表示させてから、キーワードのタブをクリックする

検索可能なキーワードの一覧が表示されます。

2 文字を入力する

自動的に検索されます。

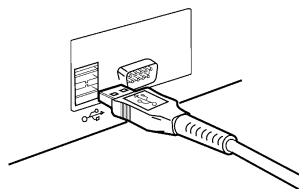
3 項目を選択して[表示(D)] をクリックする

選択項目の説明が表示されます。

ご注意

本書はDSS Playerの基本的な操作を説明しています。メニューや詳細についてはオンラインヘルプをご覧ください。オンラインヘルプはDSS Playerのインストール後から使用できます。

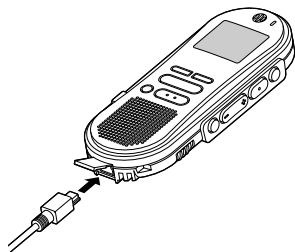
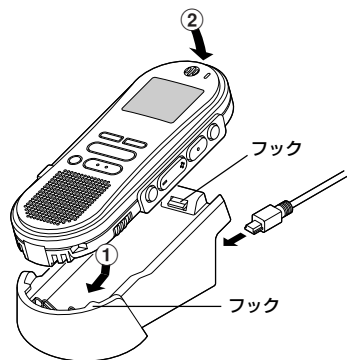
パソコンに接続する

本機の接続は、必ずDSS Player をインストールしてから行ってください (☞ P50)。インストールする前に本機を接続すると [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。その場合は [キャンセル] ボタンでウィザードを中断し、DSS Player のインストールを行ってください。
パソコンと接続すれば、付属のUSB 接続ケーブルより電源が供給されますので、本機に電池やAC アダプタからの電源供給は必要ありません。
また付属のクレードル（卓上ホルダー）を使ってもパソコンに接続できます。

直接パソコンに接続する

1 USB接続ケーブルをパソコンのUSBポートまたはUSBハブに接続する

2 本機が停止していることを確認し、USB接続ケーブルを本機のパソコン接続端子に接続する

USB接続中は、本機のディスプレイに「PCと接続中です」と表示されます。

ご注意

- 録音/再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB 接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。
- 一部のパソコンやUSBハブではUSBポートからの電力供給能力が不足するために、本機の接続ができないことがあります。その場合は本機のメニュー設定でUSBマイク/スピーカを「OFF」にしてください（☞ P47）。
- パソコンのUSBポートまたはUSBハブについては、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。
- USB接続ケーブルは、必ずパソコン本体のUSB ポートまたはセルフパワー（AC アダプタ接続）のUSBハブに接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されていないと正常に動作しません。
- ホールドスイッチは解除してください。

クレードルを使ってパソコンに接続する

クレードルに装着する

1 USB接続ケーブルをパソコンのUSBポートまたはUSBハブに接続する

2 USB接続ケーブルをクレードルに接続する

3 本機が停止していることを確認し、クレードルに装着する

クレードルに装着するときは、①本機のクレードル取り付け部を手前側のフックに合わせて差し込み、②本機の上部を奥のフックが「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
USB接続中は、本機のディスプレイに「PCと接続中です」と表示されます。

クレードルから取り外す

4 本機の録音/再生表示ランプが点滅していないことを確認し、本機をクレードルから取り外す

クレードルを手で押さえながら、本機のマイク付近を手前に持ち上げ、フックを外してください。

5 USBケーブルを外す

ご注意

- 接点部に触れたり、曲げたりしないでください。
- ホールドスイッチは解除してください。

DSS Player を起動する

Windows

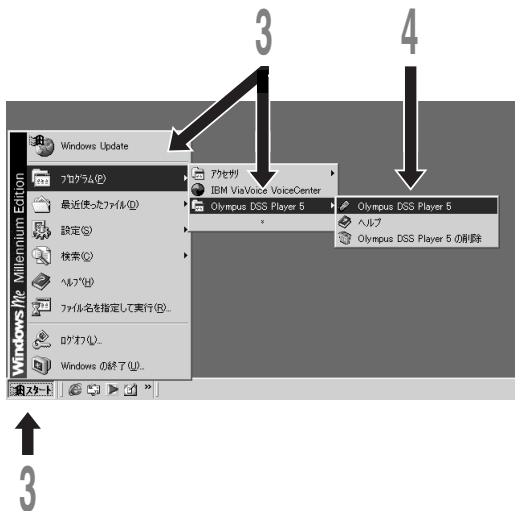
1 Windowsを起動する

2 本機をパソコンに接続する

接続方法は、「パソコンに接続する」をご覧ください(☞ P56)。

3 [スタート]→[プログラム(P)]→[Olympus DSS Player 5]の順に選ぶ

XPでは[スタート]→[すべてのプログラム(P)]→[Olympus DSS Player 5]になります。

4 [Olympus DSS Player 5]をクリックする

自動起動について

本機をパソコンに接続したとき、自動的にDSS Player を起動させることができます。

① 画面右下のタスクバーの を右クリックし、[自動検出アプリケーション]を選びます。

② DSS Playerにチェックを入れると、自動起動する設定になります。
DSS Playerを自動起動させない場合はチェックを外してください。

ご注意

- 複数の DSS Player を同時に起動させることはできません。
- DSS Playeをインストールする前に本機を接続すると［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示されます。その場合は［キャンセル］ボタンでウィザードを中断し、DSS Player のインストールを行ってください。

Macintosh

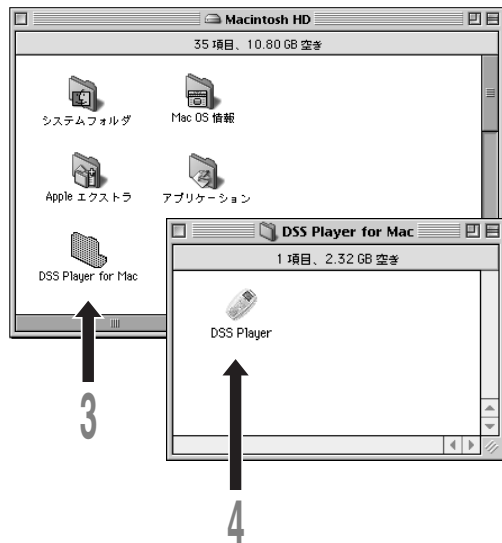
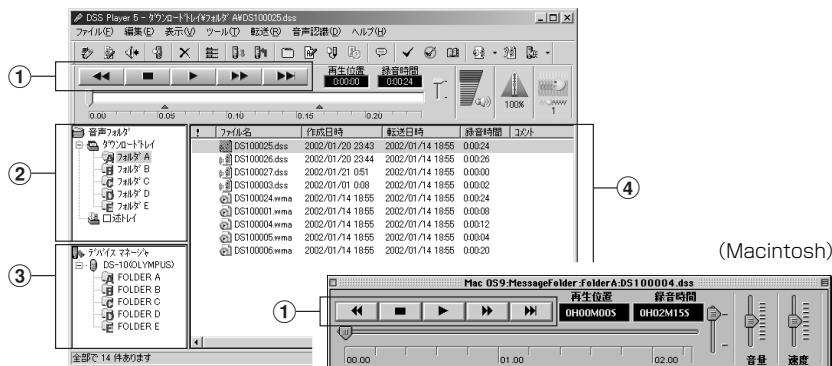
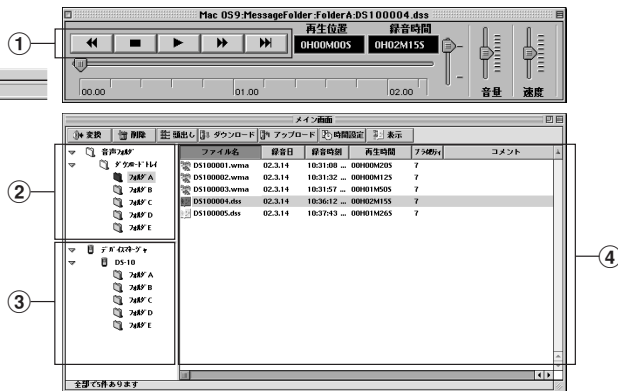
1 Macintoshを起動する

2 本機をパソコンに接続する

接続方法は、「パソコンに接続する」をご覧ください(☞ P56)。

3 「DSS Player for Mac」フォルダをダブルクリックする

「DSS Player for Mac」フォルダが開きます。

4 「DSS Player」をダブルクリックする

ウィンドウのなまえ

① 再生コントロールボタン

ファイルの再生や、停止など操作を行うボタンが配置されています。

② 音声フォルダウィンドウ

パソコン内のDSS、WMA、WAVE（Windowsのみ）、AIFF（Macintoshのみ）形式ファイルが入ったフォルダを階層表示します。

③ デバイスウィンドウ

本機内のフォルダを階層表示します。

④ 音声ファイル一覧ウィンドウ

②、③ で選択されているフォルダ内のファイルを表示します。

録音した音声をパソコンに取り込む

本機からファイルをパソコンに取り込むことをダウンロードと呼びます。DSS Player では、ファイルをパソコンにダウンロードする方法として次の３つがあります。

- 選択ファイルのダウンロード
  １つ、または複数のファイルを選択してパソコンに取り込みます。
- フォルダのダウンロード
  フォルダ内にあるすべてのファイルをパソコンに取り込みます。
- すべてのダウンロード
  ダウンロードアイコン をクリックして、本機にあるすべてのファイルをパソコンに取り込みます。

ここでは「選択ファイルのダウンロード」について説明します。「フォルダのダウンロード」や「すべてダウンロード」については、オンラインヘルプをご覧ください。

選択ファイルのダウンロード

1 フォルダを選ぶ
デバイスウィンドウでダウンロードしたいファイルが入ったフォルダを選びます。図では、FOLDER A が選択されています。

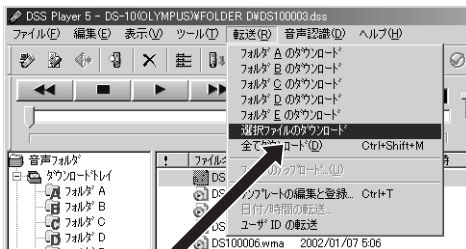
2 ファイルを選ぶ
音声ファイル一覧ウィンドウからダウンロードしたい音声ファイルを選択します。複数選択する場合は、［Ctrl］キーまたは［Shift］キーを押しながら選びます。図では1つのファイルが選択されています。

3 ファイルをダウンロードする

(Windows)

［転送(R)］メニューから［選択ファイルのダウンロード］をクリックします。

(Macintosh)

［ツール］メニューから［選択ファイルのダウンロード］をクリックします。

4 ダウンロードの完了

画面が消え、本機の録音/再生表示ランプが消えたらダウンロードの完了です。

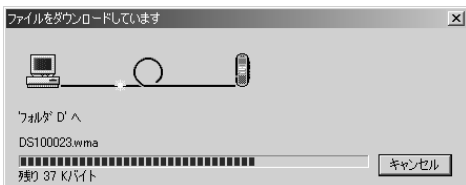
ファイルをダウンロードしています

'フォルダ D' へ

DS100023.wma

残り 37 Kバイト

キャンセル

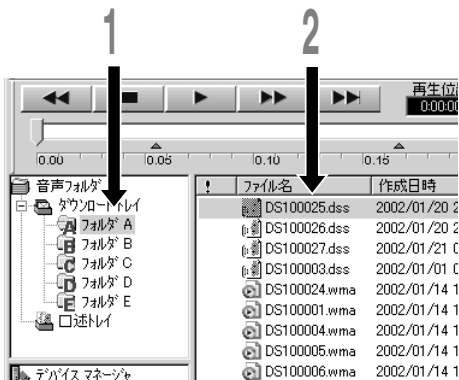
ご注意

- 録音/再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。
- ファイルのサイズやパソコンによってはダウンロードに時間がかかることがあります。
- ダウンロード先は、本機のフォルダと対応した、ダウンロードトレイのフォルダに保存されます。
  (例) 本機のフォルダAからダウンロードしたファイルは、パソコン上のダウンロードトレイのフォルダAに保存されます。
- 同じファイル名がすでにあるときは、録音日時が異なる場合のみ別のファイル名で保存されます。

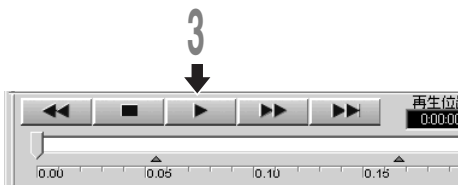
ファイルを再生する

1 フォルダを選ぶ

再生したいファイルが入っているフォルダを選びます。
図では取り込み済みのファイルを指定するため、音声フォルダウィンドウのフォルダAを選択しています。

2 ファイルを選ぶ

音声ファイル一覧ウィンドウから再生したいファイルを選びます。
図では「DS100025.dss*」ファイルが選択されています。

3 ファイルを再生する

再生コントロールバーの再生ボタン ▶ を押します。

その他の早戻し、早送り、停止、再生速度、音量、時間軸、インデックスマークスキップなどは、再生コントロールバーで操作できます。詳細については、オンラインヘルプをご覧ください。
本機を接続した状態で再生すれば、本機をスピーカがわりにして楽しめます（☞ P76）。

* DS10 0025.dss

- **拡張子**：HQモードで録音したファイルはWMA形式になり、拡張子がwmaにかわります。
- **ファイル番号**：本機が自動的につける連続した数字。
- **ユーザID**：本機に設定されたファイル名で初期値はDS10。
  ユーザIDは変更可能です（☞ P68）。

ファイルを本機に転送する

DSS Player には、パソコンにあるファイルを本機に転送（アップロード）する機能があります。

1 フォルダを選ぶ

音声フォルダウィンドウから、転送したいファイルの入っているフォルダを選びます。

2 ファイルを選ぶ

音声ファイル一覧ウィンドウから、転送したいファイルを選びます。

3 転送先フォルダを選ぶ

(Windows)

[転送(R)] メニューから [ファイルのアップロード] を選択、またはアップロードアイコンをクリックします。転送先フォルダ一覧のウィンドウが表示されたら、転送先フォルダを選んでください。

(Macintosh)

[ツール] メニューから [アップロード] をクリックします。

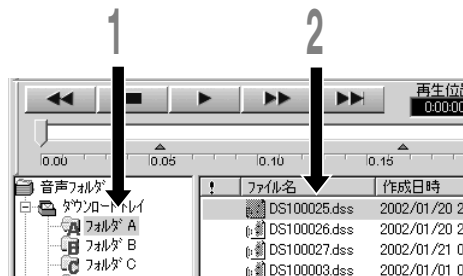
4 ファイルを転送する

ファイルが本機に転送されます。

5 アップロードの完了

画面が消え、本機の録音/再生表示ランプが消えたらアップロードの完了です。

音声ファイル一覧ウィンドウから転送したいファイルを選び、音声フォルダウィンドウのフォルダにドラッグ＆ドロップ (マウスの左ボタンを押したまま移動し、移動先でボタンを離す) して転送することもできます。

ご注意

- 録音 / 再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。
- 本機のフォルダ内に、同じ名前のファイルがある場合は転送できません。

直接パソコンに録音、編集する

Windows

パソコンを操作して録音や編集を行いたいときは、本機を接続した状態（☞ P56）で「リモート編集画面」を開いてください。挿入録音や上書き録音、インデックスマークの編集などが簡単に行えます。詳細については、オンラインヘルプをご覧ください。

新規で録音する

1. [ファイル(F)]メニューから[ファイルの新規作成]を選択、またはアイコンをクリックする
2. 録音ボタンを押して録音を開始する
3. 停止ボタンを押して録音を停止する

既存のファイルを編集する

1. 音声ファイル一覧ウィンドウから編集したいファイルを選択する
2. [ファイル(F)]メニューから[ファイルの編集]を選択、またはアイコンをクリックする
3. 編集する

   部分消去、インデックスマーク、優先度などの編集ができるほか、ポジションコントロールバーで指定した位置からの挿入録音(「挿入録音」にチェックを入れる)や上書き録音ができます。

ご注意

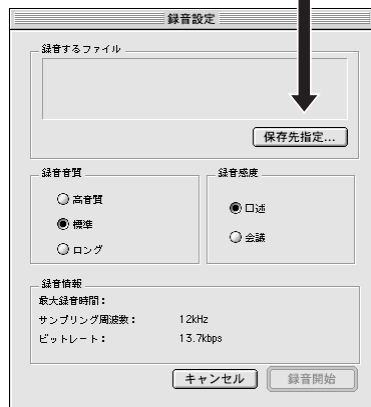
- WMA ファイルは本機で録音したファイルに限り編集できます。
- WAV ファイルの編集はできません。

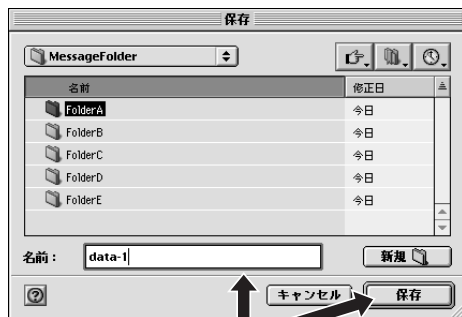
Macintosh

本機を接続した状態（☞ P56）で［ツール］メニューから ［録音］コマンドを使用します。詳細については、オンラインヘルプをご覧ください。

新規で録音する

1 録音の設定をする

録音設定ウィンドウが表示されます。
[保存先指定]をクリックしてください。

2 録音先とファイル名を設定する

保存ウィンドウが表示されます。
録音先フォルダとファイル名を入力し、[保存]をクリックします。

3 録音を開始する

録音設定ウィンドウの［録音開始］をクリックし、録音を開始します。

録音を開始する前に、音質、感度を変更することができます。

4 録音の終了

録音ウィンドウの［終了］をクリックしてください。

［ファイル］メニューの［AIFF ファイルに変換］コマンドを使用すれば、DSS形式のファイルをAIFF形式のファイルに変換することができます。ただしAIFF形式に変換すると、DSS形式独自の情報（優先度、インデックスマークなど）が失われます。

ご注意

- AIFF 形式から DSS 形式への変換はできません。
- 既存のファイルに対して、部分消去、インデックスマーク、優先度などの編集をすることはできません。

ファイルを E-mail で送信する

ファイルをお使いのメールソフトに添付して送信することができます。
メール送信方法の詳細については、お使いのメールソフトの取扱説明書をご覧ください。

• メールの受信相手に DSS Player がなくても、DSS Player-Lite を使えばファイルを再生できます。DSS Player-Lite はオリンパスホームページ、http://www.olympus.co.jp から無償でダウンロードできます。

1 DSS Playerを起動する

2 お使いのメールソフトを起動し、新規メールを作成する画面を選ぶ

3 ファイルを添付する

DSS Playerの音声ファイル一覧ウィンドウから添付したいファイルを選び、新規メールを作成する画面の本文欄にドラッグ＆ドロップします。

ご注意

上記の操作に対応していないメールソフトの場合は、メールソフトからファイル添付機能により、ファイルのあるフォルダから目的のファイルを選択してください。初期設定では音声ファイルは、Windows が C:¥Program Files¥Olympus¥DSS Player5¥Message¥FolderA（または B、C、D、E）に、Macintosh が DSS Player for Mac:MessageFolder:FolderA (または B、C、D、E）にあります。

本機のユーザ ID を変更する

本機で録音される DSS 形式（SP・LP モード）と WMA 形式（HQ モード）のファイル名には、自動的にユーザ ID がつけられます。

1 [ユーザIDの転送] 画面で、新たなIDを入力する

(Windows)［転送 (R)］ メニュー内にあります。
(Macintosh)［ツール］ メニュー内にあります。

2 [転送] をクリックする

変更したユーザID名が本機に転送されます。

フォルダ名を変更する

音声フォルダウィンドウのフォルダ名を変更する

［ファイル］メニューの［フォルダ名の変更］コマンドを使用することで、フォルダ名を変更できます。フォルダ名は、半角で 20 文字まで入力可能ですが、半角の¥/:*?"<>| は入力できません。

デバイスウィンドウのフォルダ名を変更する

（Windows）変更するフォルダ名を右クリックし［フォルダ名の変更］を選択、フォルダ名を入力します。変更したフォルダ名は本機のフォルダ名に反映されます。
（Macintosh）［ツール］メニューから［フォルダ名の変更］を選択、フォルダ名を入力します。

デバイスウィンドウのフォルダ名として使用できる文字は、半角記号を除いた大小半角英数字、半角カタカナ、ひらがな、漢字、全角記号で全角４文字（半角８文字）以内です。

コメントを編集する

DSS Player 上のコメントは「コメントの編集」画面で編集し、本機へ転送することができます。本機から読み込んだコメントの編集も可能です。

「コメントの編集」画面は、[ツール(T)]メニューから[コメントの編集]を選択してください。

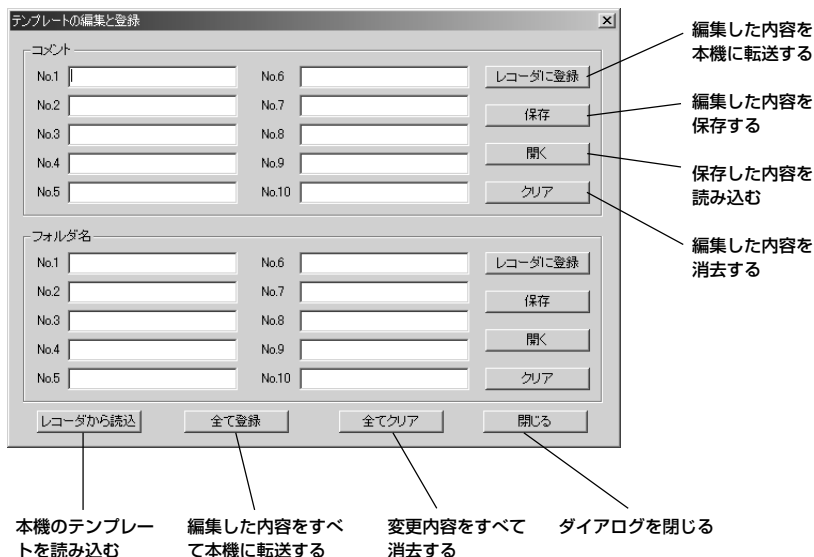
使用できる文字は、半角記号を除いた大小半角英数字、半角カタカナ、ひらがな、漢字、全角記号で全角50文字(半角100文字)以内です。

テンプレートを編集する

DSS Player 上のフォルダ名・コメントのテンプレートは「テンプレートの編集と登録」画面で編集し、本機へ転送することができます。本機から読み込んだテンプレートの編集も可能です。

(Windows) [転送(R)] メニューから [テンプレートの編集と登録] を選択してください。

(Macintosh) [ツール] メニューから [テンプレートの編集と登録] を選択してください。

使用できる文字は、フォルダ名・コメントとも半角記号を除いた大小半角英数字、半角カタカナ、ひらがな、漢字、全角記号で全角10文字(半角20文字)以内です。

音声認識ソフトを使う（別売）

市販されているIBM社の「ViaVoice」またはジャストシステム社の「Voice 一太郎」といっしょにお使いになると、本機で録音したファイルをパソコンに転送し、文字変換させることができます。詳細については音声認識ソフトの取扱説明書をご覧ください。

本機との対応が確認されている音声認識ソフトは下記のとおりです。（2002年1月現在）

日本IBM社
- ViaVoice ミレニアム（Pro/Standard）
- ViaVoice V8（Premium/Pro/Standard）
- ViaVoice V9（Premium/Pro USB/Standard）

ジャストシステム社
- Voice 一太郎 10 e-Talk
- Voice 一太郎 11

今後リリースされるソフトウェアの対応状況については、弊社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください（☞ P82）。
また、これらのソフトウェアを本機との組み合わせでご使用になる場合は、お使いのパソコンでの動作を各ソフトのメーカーにご確認ください。

- 音声認識ソフトViaVoiceに関するお問い合わせは、ViaVoice製品に同梱されている「IBM PC ソフトウェア・サービスのご案内」にしたがって日本アイ・ビー・エム株式会社の窓口でサポートをお受けください。その際、必要に応じて本製品に同梱されている「IBM テクニカルサポートID番号」をお伝えください。
- Voice 一太郎に関するお問い合わせは、Voice 一太郎製品に同梱されているガイド「まずはじめにお読みください」にしたがって、株式会社ジャストシステムの窓口でサポートをお受けください。

ご注意

音声認識機能が使えるのはWindows版だけです。

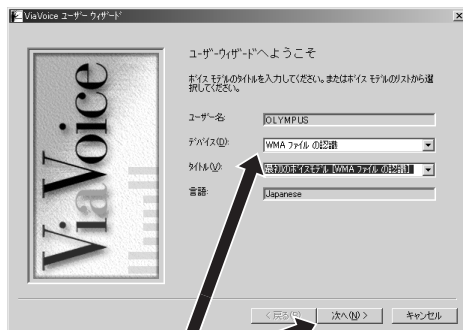
入力デバイスの設定

本機で録音したファイルを音声認識させるためには、音声認識ソフトで本機用の入力デバイスを設定する必要があります。
ここではViaVoiceを使った音声認識について説明しています。まず、ViaVoiceに同梱されているヘッドセットマイクでマイク入力のクイックトレーニングを行った後、以下の手順にしたがい設定してください。

1 [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]→[IBM ViaVoice VoiceCenter]の順に選ぶ

2 [IBM ViaVoice VoiceCenter]の[ViaVoice]ボタンから[ツール]、[エンロール]を選ぶ

3 ViaVoice ユーザーウィザード画面の表示

[デバイス] のリストボックスから[WMAファイルの認識] または[DSSファイルの認識]を選択して[次へ]をクリックします。

4 オーディオセットアップ

Windows 98をお使いの場合はPC接続ケーブル(KP4)を、Windows 98 SE以降のOSをお使いの場合はUSB接続ケーブルを用いてセットアップを行います。

USB ケーブルを用いる場合

① 本機をUSB接続して画面の指示にしたがいます。
ホールドスイッチは解除してください。

② [サウンドカードの選択]
[サウンドカードの選択]画面が表示されたら[入力]に[USBオーディオデバイス]を選択し、画面の指示にしたがいます。(XPでは[Microphone Control(DS-10)]を選択します)

オーディオセットアップやエンロール中に音声入力をするときは、そのままの状態で本機から音声入力してください。

PC 接続ケーブルを用いる場合

① 本機をUSB接続せずに画面の指示にしたがいます。

② [入力デバイスの接続]
[入力デバイスの接続]画面が表示されたら指示にしたがい、本機とパソコンをPC接続ケーブルでつなぎます。

オーディオセットアップやエンロール中に音声入力をするときは、本機のフォルダボタンを押している間だけマイクがオンになり、音声入力が行えます。その間、本機のディスプレイに「エンロール」が表示されます。

本機やファイルを使用して音声認識を行う前に、本機を使った環境のエンロールを行うことをおすすめします。これによりあなたの声の特徴が登録され、認識率を向上させることができます。

ご注意

- 付属のPC接続ケーブル(KP4)を使用してエンロールを行うときは、録音モードを「HQ」または「SP」に設定してください。LPモードに設定すると「録音モードを変更して下さい」と警告表示され、エンロールを行うことができません。
- 「HQ」「SP」それぞれのモードでエンロールが必要になります。
- 本機のメニュー設定でUSBマイク/スピーカを「OFF」にした場合は、PC接続ケーブル(KP4)を使用してエンロールを行ってください。

音声認識させる

1 フォルダを選ぶ

音声フォルダウィンドウから、音声認識させたいファイルの入っているフォルダを選びます。

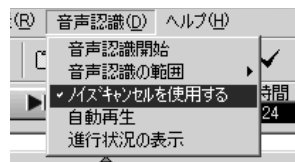
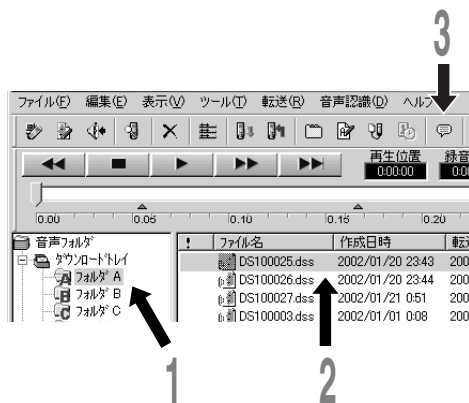
2 音声ファイルを選ぶ

音声ファイル一覧ウィンドウから、音声認識させたいファイルを選びます。

3 音声認識の開始

音声認識開始アイコン をクリックします。音声認識ソフトのウインドウが表示され、音声認識が開始されます。

ノイズキャンセルについて

メニューバー［音声認識（D）］内にある［ノイズキャンセルを使用する］にチェックを入れることで、ノイズキャンセル機能を効かせた音質を音声認識ソフトに出力することができます。

変換した文字の修正など、音声認識ソフトの機能については音声認識ソフトの取扱説明書をご覧ください。

音声認識を目的とした録音について

本機を使用して、音声認識を目的とした録音をするときは、次のようなことに十分注意して録音してください。

- マイク感度スイッチを「口述」にする
- 録音モードを「SP」または「HQ」に設定する
- 音声起動録音（VCVA）モードを「OFF」にする
- 音声認識ソフトに声を登録した 1 人の話し手が録音する
- 比較的静かな環境で録音する
- 本機の内蔵マイクと話し手の口を近づけて（5 ～ 10cm）録音する
- 一定の話しかたで録音する

次のような条件で録音したファイルは認識率が低く、音声認識にはお使いいただけません。

- 複数の人の声が録音される、会議や座談会など
- まわりの雑音も録音されやすい、講演会や講義など

USB マイク / スピーカとして使う

USB スピーカとして使う

本機はUSB接続するとUSBスピーカとして機能させることができます。USBスピーカとして用いると、パソコンに付属のスピーカから音声出力をさせずに、本機から音声出力させることができます。

メニューバーの[ツール(T)]から「オーディオの選択」を選び、出力先を切り替えます。

USB マイクとして使う

本機はUSB接続するとUSBマイクとして機能させることができます。USBマイクとして用いると、音声認識ソフトや他のアプリケーションでも本機をマイクがわりにして使用できます。

Windows 2000,Me,98SE の場合

[コントロールパネル] → [(サウンドと) マルチメディア] → [オーディオ] タグを選び、録音デバイスから [USB オーディオデバイス] を選択します。

Windows XP の場合

[コントロールパネル] → [サウンド、音声およびオーディオデバイス] → [サウンドとオーディオデバイス] → [オーディオ] タグを選び、録音デバイスから [Microphone Control (DS-10)] を選択します。

ご注意

- USB スピーカの切り替えは、USB マイクと同様に [コントロールパネル] からの切り替えもできます。
- パソコンの動作が不安定になる恐れがありますので、Windows 98 ではUSB マイク / スピーカとしてご使用にならないでください。(Windows 98SE 以降の OS でお使いください)
- USB マイク / スピーカとして使えるのは Windows 版だけです。
- 本機のメニュー設定で USB マイク / スピーカを「OFF」にした場合は、USB マイク / スピーカとしてご使用できません。

警告表示一覧

表示	詳細	解決方法
電池を交換して下さい (BATTERY LOW)	電池残量がない	新しい電池に交換してください（☞ P10）
消去できません (LOCK ON)	消去ロックがかかっているファイルを消去しようとした	消去ロックを解除してください（☞ P29）
これ以上記録できません （インデックスマークをつけるとき） (INDEX FULL)	ファイル内でインデックスマークを最大数（16）まで使っている	必要のないインデックスマークを消去してください（☞ P33）
これ以上記録できません （録音するとき） (FOLDER FULL)	フォルダ内のファイル件数が最大数（199）になっている	必要のないファイルを消去してください（☞ P27）
文字数オーバーです (OVER FLOW)	入力可能な文字数を超えている	制限文字数以内でもう一度入力し直してください
件数オーバーで移動できません (FOLDER FULL)	移動先フォルダ内のファイル件数が最大数（199）になっている	必要のないファイルを消去してください（☞ P27）
メモリがいっぱいです (MEMORY FULL)	フラッシュメモリの残量がない	必要のないファイルを消去してください（☞ P27）
ファイルがありません (NO FILE)	フォルダ内にファイルがない	フォルダを選び直してください
録音モードを変更して下さい (CHANGE REC MODE)	エンロール中の録音モードがLPになっている（KP4使用時）	録音モードをHQまたはSPに変更してください
初期化に失敗しました (FORMAT ERROR)	初期化に問題があった	メモリを再フォーマットしてください（☞ P46）
MEMORY ERROR	内蔵のフラッシュメモリに異常がある	故障ですのでお買い上げの販売店または当社のサービスステーションに修理をご依頼ください
SYSTEM ERROR	本機のシステムに異常がある	故障ですのでお買い上げの販売店または当社のサービスステーションに修理をご依頼ください

故障かな？と思ったら

症状	考えられる原因	対処方法
ディスプレイに何も表示されない	電池が正しく入っていない	電池の＋、－を確かめてください
	電池が消耗している	電池を交換してください
	ホールドがかかっている	ホールドを解除してください（☞ P43）
操作できない	ホールドがかかっている	ホールドを解除してください（☞ P43）
	電池が消耗している	電池を交換してください
録音できない	メモリ残量がない	必要のないファイルを消去してください
	ファイル番号が最大記録件数になっている	別のフォルダを確認してみてください
再生音が聞こえない	イヤホンが接続されている	内蔵スピーカでの再生時はイヤホンをはずしてください
	音量つまみが“0”になっている	音量つまみを調節してください
消去できない	消去ロックがかかっている	消去ロックを解除してください（☞ P29）
再生時に雑音がする	録音時に本機をこすったりした	—
	録音時、再生時に本機を携帯電話や蛍光灯の近くに置いている	操作時に本機の位置を変えてみてください
録音のレベルが小さい	マイク感度が低い	マイク感度を「会議」にしてもう一度録音してみてください
インデックスマークがつけられない	インデックスマーク件数が最大（16 件）になっている	必要のないインデックスマークを消去してください（☞ P33）
	消去ロックがかかっている	消去ロックを解除してください（☞ P29）
AC アダプタで動作しない	専用でないアダプタで操作した	専用アダプタ（別売）をご利用ください
録音したファイルがない	録音したフォルダではない	フォルダボタンでフォルダを切り替えてください
早聞き・遅聞き再生ができない	ノイズキャンセル機能が「LOW」か「HIGH」になっている	ノイズキャンセル機能の設定を「OFF」にしてください
パソコンと接続できない	一部のパソコンや USB ハブでは USB ポートの電力供給能力が不足している	本機のメニュー設定でUSBマイク/スピーカを「OFF」にしてください（☞ P56）
クレードルを使ってパソコンと接続できない	Windows XP の場合、一部のパソコンではうまく接続できないことがある	パソコンの USB に関する設定を変更する必要があります。詳しくはDSS Playerのオンラインヘルプをご覧ください（☞ P55）

用語の説明

用語	意味
ボイストレック	オリンパス製 IC レコーダーの総称です。
メモリ	本機では内蔵フラッシュメモリのことを指します。
音声ファイル	本機で録音した用件のことをファイルと呼びます。
フォルダ	ファイルを分類して録音するための機能（入れ物）です。
キュー	早送り再生のことです。
レビュー	早戻し再生のことです。
VCVA	設定より大きな音を感知すると自動的に録音を開始し、音が小さくなると停止する音声起動録音の略称です。
録音モード	録音の用途に合わせて選択可能な録音方式のことです。
消去ロック	誤消去を防止するための機能で、各ファイルごとに設定可能です。
インデックスマーク	ファイル中のどこにでもつけられる頭出し信号のことです。
アラーム再生	指定した時刻にアラーム音が鳴り、アラーム音が鳴っている間にボタンを押すと設定したファイルを再生する機能です。
ビープ（BEEP）音	ボタンを操作したときの確認音や警告音のことです。
フォーマット	初期化とも言います。
USB 接続	本機とパソコンを接続するための方法です。接続にはパソコン側に USB 端子が必要です。

アクセサリー（別売）

単一指向性マイクロホン：ME12
周囲の雑音の影響を軽減して、ご自身の声を録音したい場合に適した口述録音用マイク。

AC アダプタ：A324
国内専用の AC アダプタです。

コネクティングコード：KA232*
ラジオなどのイヤホンジャック（モノラルタイプ）と本機のマイクロホンジャックを接続して、ラジオの音声を録音する場合に使用します。

プラグアダプタ：PA3
ミニミニプラグ（φ 2.5）をミニプラグ（φ 3.5）用のジャックに接続するためのプラグアダプタです。ミニミニプラグを備えたマイクロホンなどを、本機のマイクロホンジャックに接続する場合に必要です。

＊ これらのアクセサリーは、プラグアダプタ PA3 といっしょにご使用ください。

主な仕様

記録形式	DSS（Digital Speech Standard）形式 WMA（Windows Media Audio）形式
規定入力レベル	− 70dBv
サンプリング周波数	HQ モード： 44.1kHz SP モード： 12kHz LP モード ： 8kHz
総合周波数特性	HQ モード： 300 〜 7,000Hz SP モード： 300 〜 5,000Hz LP モード ： 300 〜 3,000Hz
記録時間	HQ モード： 約 4 時間 20 分 SP モード： 約 10 時間 25 分 LP モード ： 約 22 時間 20 分
電池持続時間（録音）	約 12 時間（アルカリ乾電池使用時で当社試験法による）
（再生）	約 8 時間（アルカリ乾電池使用時で当社試験法による）
記録媒体	内蔵型フラッシュメモリ
スピーカ	φ 28mm 丸型ダイナミックスピーカ内蔵
マイクジャック	φ 3.5mm 小型ジャック、インピーダンス 2kΩ
イヤホンジャック	φ 3.5mm 小型ジャック、インピーダンス 8Ω 以上
スピーカ実用最大出力（DC3V）	250mW 以上（スピーカ 8Ω）
電源	定格電圧：3V 電池　　：単 4 形乾電池 2 本（LR03 または R03） 外部電源：AC アダプタ
外形寸法	108 × 41.5 × 21mm（最大突起部含まず）
質量	75g（電池含む）
同梱品	本体 モノラル両耳イヤホン (E20) アルカリ単 4 形乾電池 × 2 クレードル（CR1） USB 接続ケーブル（KP10） PC 接続ケーブル（KP4） CD-ROM 取扱説明書（保証書付） クイックマニュアル 愛用者カード オリンパスサービスステーションリスト シリアルナンバー ・IBM テクニカルサポート ID 番号

＊本機の仕様および外観は性能改良などのため、予告なく変更する場合がありますので予めご了承ください。

＊電池持続時間は使用電池・使用条件により大きく変りります。

＜アフターサービスについて＞

お買い上げいただきました本機を安心してご愛用いただくために当社では、次のアフターサービス体制をとっております。

● **本機およびDSS Playerに関するお問い合わせは**
オリンパスカスタマーサポートセンター
Tel ：0426（42）7499
Fax：0426（42）7486
サポート時間　AM 9：30－PM 5：00
（土、日、祝祭日、弊社定休日を除きます）
〒192－8507　東京都八王子市石川町2951

下記のアクセスポイントにお電話いただきますと、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。アクセスポイントまでの電話料金はお客様のご負担となります。

＜アクセスポイント＞

【東　京】0426－42－7499
【札　幌】011－231－2338
【仙　台】022－218－8437
【新　潟】025－245－7343
【静　岡】054－253－2250
【名古屋】052－201－9585
【大　阪】06－6252－0506
【高　松】087－834－6180
【広　島】082－222－0808
【福　岡】092－724－8215
【鹿児島】099－222－5087
【沖　縄】098－864－2548

オリンパスホームページ
http://www.olympus.co.jp でICレコーダー（ボイストレック）および関連製品の技術情報を提供しております。

● 製品の修理に関してはお買い上げ店か、お近くのオリンパスサービスステーションにお問い合わせください。当社では本機の補修用修理部品は、製造打ち切り後6年間をめやすに保有しております。したがいまして上記期間中は、原則として修理をお受けいたします。また期間後であっても修理可能の場合もあります。

● なお保証期間経過後の修理は有料となります。また、保証期間中でも運賃など諸費用は、お客様にご負担をお願いいたします。製品を送る場合は、必ず書留小包または宅配便をご利用ください。

＜保証規定＞

1. この保証書は、取扱説明書、品質表示ラベル等の注意書にしたがった正常なお取扱いにより発生した故障に対して、お買い上げ日から満一年間、当社が無料修理の責任を負うことを保証するものです。
2. 有効期間内に故障して無料修理を受けられる場合は、商品と本書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店又は当社サービスステーションに依頼してください。
3. 販売店、または当社サービスステーションにご持参いただくに際しての諸費用は、お客様にご負担願います。製品を送る場合は、必ず書留小包または宅配便をご利用ください。また販売店と当社間の運賃諸掛につきましては、輸送方法によって（問屋便以外をしようした場合）一部ご負担いただく場合があります。
4. ご転居、ご贈答品等でお買い上げ販売店に依頼できない場合は、別紙の最寄りのサービスステーションにお問い合わせください。
5. この保証書は、本書に明示した期間、条件の元において無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書は、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。
6. 本製品の故障に起因する付随的損害（録音、再生に要した諸費用及び録音、再生により得べかりし利益の損失等）については保証致しかねます。
7. 保証期間内でも次のような場合には有料修理になります。
   - イ . ご使用上の誤り及び当社サービスステーション及び指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解・掃除等による故障。
   - ロ . お買い上げ後の輸送、落下等による故障及び損傷。
   - ハ . 火災・異常電圧・地震・水害・落雷・公害・その他、天災・地変による破損又は故障。
   - ニ . 本書のご提示がない場合。
   - ホ . 本書にお買い上げ年月日、シリアルナンバー、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
   - ヘ . 電池等の消耗品による故障。
8. 保証の対象は本体のみです。

＜保証書取扱い上の注意＞

本書は日本国内においてのみ有効です。
(THIS WARRANTY CARD IS VALID ONLY IN JAPAN)
販売店名およびお買い上げ年月日が記載されていることを確認してください。記入もれがあった場合は直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。

＜保証責任者・保証履行者＞

オリンパス光学工業株式会社
〒 163-8610 東京都新宿区西新宿 1-22-2 新宿サンエービル

保証書

本書は、本書記載内容で無料修理を行なうことをお約束するものです。お買い上げの日から１年以内に故障した場合は本書をご提示の上お買い上げの販売店または当社サービスステーションに修理をご依頼ください。

	無料修理保証期間	部品代		修理工料
本体	１年	無料		
品名	ボイストレック	型名	DS-10	
ボディーNo.		お買い上げ日	年　月　日	
お客様	住所 〒 TEL 氏名　様			
販売店名				

無　効

D1-2848-02